

定稅免許

明治十二年十月印行

佛
因刑
法講義

第十一號

警視局藏版

本訴ヲ爲スヲ得ル者ハ罰金ニ付テハ檢官トシ物品物
 返還損害ノ賠償ニ付テハ民事原告人即チ被害者トス此法ハ
 本犯ノ貧富ヲ問ハス一般ニ適用スル者ニシテ要スルニ
 故意ニ出金セサル者ノ爲メニ設ケリ
 即チ罰金等ヲ出スヘキノ資力アリテ故サラニ之ヲ納完
 シス又ハ損害ノ賠償ヲ爲サハル者モ或ハ入監拘留ノ屈
 辱ヲ被ラントチ恐レテ遂ニ全額ヲ納償スルニ至ラノ是
 レ此法ヲ設クルノ目的ナリ
 然ルニ實際大ニ目的ト相背馳スル者アリ何トナレハ出
 金ノ額寡キ者ニ在テハ拘留ノ辱ヲ被ラシヨリハ速ニ之
 チ辨償スルニ如カストスルモ其巨額ニ至リテハ寧ロ數
 年ノ拘留ヲ忍ンテ重難ノ義務ヲ免カルノ幸ナルニ如

ガスト爲シ甘ンシテ之ヲ受ルニ至ル是レ小人ノ常情ナ
 リ
 又通常民法上ニ於テハ更ニ甚シキ者アリ假令ヘハ數十
 萬フランシノ負債ヲ爲シ竊カニ之ヲ親戚朋友等ノ家ニ
 匿シ返付ノ期ニ至レハ其資力ナキニ托シ拘留ヲ受ケテ
 其責ヲ遁レント欲スルカ如キ惡計一ニシテ足ラス民法
 止ニ屬ス
 又赤貧無力ノ者ニ在テハ如何ナル嚴責ニ遇フトモ到底
 辨償スルヲ能ハサルヲ以テ遂ニ拘留ノ効ナシ獨リ効ナ
 キノミナラス爲メニ其營業ヲ廢シテ益資力ヲ生スルノ
 路ナカラシメ而シテ債主タル者ハ拘留者ノ食料ヲ辨償セ
 サル可カラサルヲ以テ却テ徒ニ多少ノ損失ヲ増加スル

ニ至ル世人概ムテ之ヲ知レルガ故ニ通常拘置ヲ訴求スル者ハアラサルナリ

千八百四十八年共和黨王黨ニ代リテ政權ヲ得タルノ際ニ至リ其刑罰ニ非スシテ人ヲ拘置シ苟モ自由ヲ妨クルノ大ニ法理ニ反シルヲ以テ一旦盡ク之ヲ廢セリ

然ルニ千八百六十七年ニ再ヒ舊法ヲ斟酌シテ刑事上ニノミ拘置ヲ施用スルト爲セリ即チ罰金ヲ納完セサル者及ヒ品物ノ返還ヲナサス損害ノ賠償ヲ爲サ、ル者ヲ拘置スル是也

而シテ千八百七十一年ノ法ニ裁判費用ヲ償ハサル者ニモ亦同シク拘置ヲ用フルト得セシム夫レ初メノ拘置法ヲ復スルニ當リ獨リ裁判費用ヲ拂ハサル者ヲ遺セシ所

以ノ意ハ政府此等ノ金額ヲ徵收スルニ當リ其人民ヲ拘置シテ之ヲ督促スルハ最モ賤陋爲ス可カラサルノ事タリト云フニ在リ其之ヲ再復スルヤ曰ク政府費用スル所ノ金額ト雖モ元是國家ノ支度ニシテ即チ政治上必需ノ爲メニ人民ヨリ徵收セシ所ナリ然ルヲ濫リニ裁判費用ヲ拋棄シテ官金ヲ消耗スルハ萬々此理ナシ宜シク徵收ノ方ヲ盡ス可キナリト

然ルニ元來罰金ノ刑ハ人ノ自由ヲ剝奪スルニ非ス唯若干ノ金額ヲ納シムルニ過キス其金額ヲ納完セサルヲ以テ其自由ヲ拘束スルハ公正ヲ得タリト爲ス可カラス况ンヤ他ノ返還賠償等ニ於テオヤ是ヲ以テ草案ハ返還賠償ニ拘置ヲ用ヒス止タ罰金ノミ禁錮ニ換フルトチ得

且佛刑ニ在テハ罰金ヲ納完セサル者ハ若干時間拘置ス
ト雖モ之ヲ以テ罰金ニ換フルニ非ラス唯其罰金ヲ納レ
シムルカ爲メノ方法タルニ過キス草案ハ然ラス若シ其
定限内ニ罰金ヲ納完セサル者ハ之ヲ日數ニ折算シテ輕
禁錮ニ換フ故ニ佛刑ニ在テハ數月ノ拘置ヲ受クルモ以
テ負債ノ責ヲ消滅スルヲナシ草案ノ如キハ已ニ禁錮ヲ
受クハ以テ罰金ノ責ヲ免カルヘシ草案ノ佛刑ト其孰
レカ優孰レカ劣言ヲ待サルナリ
茲ニ一ノ附言ス可キ者アリ現今在日本英米等ノ領事裁
判上ニ於テ裁判ヲ沽賣スルカ如キ者アル是也
余英米艦船ノ水夫等横濱ニ在ル者飲酒亂妨シテ領事廳

ノ處分ヲ受ルヲ觀ルニ判官先ツ本犯ニ告ケテ曰ク汝ノ
罪罰金若干ニ該ル然レモ若シ之ヲ欲セサレハ科スルニ
禁錮ヲ以テセン汝其一ヲ擇ヘト而シテ其望ム所ニ從テ之
ヲ處決ス是所謂裁判ヲ沽賣スルモノニシテ其或ハ自由
風習ヨリ來レルヤ未タ知ル可カラスト雖モ亦一奇法ト
云ハザルヲ得ス
今マ草案ノ罰金ニ換フルニ禁錮ヲ以テスルハ之ト其形
ヲ同フスルカ如クシテ實ハ大ニ區別アリ即草案ハ本犯
ノ意ニ任シテ換科スルニ非ラスノ全ク檢官ノ所見ニ在
リ此ノ大ヒニ彼領事廳裁判ト異ナルモノナリ
一四 第五十三條 政府ノ爲メ犯人ニ罰金及ヒ裁判所費用ヲ出
ス可キ言渡ヲ爲シタル時若シ其犯人施體又ハ加辱ノ刑期

ノ終リシ後其罰金及ヒ裁判所費用ヲ出サ、ルニ因リ滿一
 年以上禁錮ヲ受ケタルニ於テハ其金高ヲ償フコト能ハサル
 ノ確證ヲ法律ニ循ヒ得タル上ニテ假リニ其禁錮ヲ赦宥ス
 ルコトヲ得可シ
 又輕罪ニ管シタル時ハ其禁錮ノ期限ヲ六月ニ減ス可シ然
 レモ犯人其金高ヲ償フ可キ資産ヲ得タル時ハ更ニ之ヲ禁
 錮ス可シ

此ノ重罪刑附加ノ罰金等ヲ納完セサル者ノ處分ニ係ル一
 例ニハ數年ノ徒刑ニシテ若干ノ罰金ヲ附科セラレシ者
 本刑滿チテ尙其罰金ヲ納完セサルヲ以テ更ニ拘留スル
 ノ類是也
 然ルニ之ヲ拘留スルモ其素ヨリ資力ナクシテ辨償スル

丁能ハサルノ證ヲ法律上ニ於テ判明セシキハ假リニ拘
 置チ宥ルスコトヲ得
 例ニハ邑長ニ於テ其者ノ資力ナキコトヲ證明シ若クハ収
 稅官吏ニ於テ其租稅ヲモ納ムルコト能ハサルヲ證明スル
 ノ類此レ法律上ニ確證ヲ得タル者ナリ
 第二項ハ輕罪犯ノ事ヲ云フ其處分方法ノ如キハ前項ト
 一般ニモ唯拘留期限ニ區別アルノミ
 然レモ云々以下ハ重輕罪犯ノ別ナク並ニ適用ス此レ其
 一旦拘留チ宥サレシ者商業若クハ遺物ノ贈與等ニテ資
 産ヲ得タルニ尙ホ其賠償ヲ爲シ肯シテ再ヒ之ヲ
 拘留スルヲ云フ是ニ由テ之ヲ觀レハ本條拘留ノ方法ハ
 專ラ故意ニ出ツル者ヲ處スルニ在ルヤ知ル可シ

以下千八百六十七年ノ新法ヲ舉ケテ諸君ノ考ニ資セシ

拘置ニ關スル法律千八百六十七年七月二十日ノ法律

第一條 商事民事及ヒ外國人ニ關スル拘置ハ之ヲ廢ス

第二條 重罪輕罪違警罪ニ關スル拘置ハ尙舊ニ仍ル

第三條 重罪輕罪違警罪ヲ犯スニ由リ罰金並ニ損害ノ

賠償及ヒ物品ノ還給ヲ宣告スル裁判ハ收稅官吏ノ願

ニ因リ要決書凡ソ裁決ヲ請テ犯人ニ送達シタル日ヨ

リ五日ノ後ニ非サレハ拘置ヲ執行スルヲ得ス

政府ニ納ムヘキ裁判費用ヲ納メザルニ由リテハ拘置

スルヲ得ス 千八百七十一年十二月十九日ノ法律第一條ニ依リ此項ヲ廢ス

裁判宣告書ヲ豫メ負債者ニ送達セザル場合ニ於テハ要決書ノ首ニ其宣告書ヲ摘撮スヘシ其摘撮書ニハ原

被ノ姓名並ニ宣告ノ條件ヲ記ス

檢事ハ要決書并ニ收稅官吏ノ願書ヲ閱シ公力士及ヒ

裁判所ノ命令ヲ執行スルノ任アル官吏等ニ必要ノ請

求ヲ爲ス

現ニ拘置ヲ受クル所ノ負債者ヲ更ニ拘置セントスル

ニハ先ツ之ニ要決書ヲ送達シタル後直ニ之ヲ命スル

ヲ得

第四條 重罪輕罪違警罪ノ爲メ損害ノ償ヲ爲スヘキ裁

判宣告書ハ其願人ヨリ之ヲ犯人ニ送達シ其政府ニ納

ム可キ金額ノ宣告書ト同一ナル法式ヲ以テ之レヲ拘

置ス

第五條 前數條ハ刑事裁判所ニ於テ審判シタル重罪輕

罪違警罪ニ關スル損害ノ償ヲ民事裁判所ニ於テ宣告

シタル所ノ場合ニモ適用ス

第六條 要償ノ願ニヨリ罪犯ヲ拘置スル時ハ其願人ヨ

リ拘置者ノ食料ヲ官署ニ預ケ置クヘシ若シ食料ヲ預

ケ置カサル時ハ拘置スルコトナシ

其食料ハ少クモ三十日分ヲ預クヘシ而シテ三十日分

ノ食料ハ滿三十日ノ効アルノミ

食料ノ高ハ每三十日ニ巴里府ニ於テハ四十五「フラン」

人口十萬以上ノ市府ニ於テハ四十「フラン」其他ノ市府

ニ於テハ三十五「フラン」トス

第七條 食料ヲ官署ニ預ケサルニ由リ負債者ヲ放釋セ

ントスルニハ其負債者及ヒ拘置所ノ看守人其姓名ヲ

願書ニ手署シテ民事裁判所長ニ差出ス可シ若シ負債

者其姓名ヲ手署スルコト能ハサル時ハ看守人其正實ナ

ルコトヲ保證スルヲ以テ足レリトス

右願書ハ貳通ヲ出スヘシ裁判所長ハ放釋スル旨ヲ二

通ノ書面ニテ指令ス而シテ其指令ハ看守人ノ所持ス

ル一通ノ指令ニ因テ之ヲ執行シ他ノ一通ハ裁判所書

記局ニ備ヘ置キ且無税ニテ之ヲ簿冊ニ登録ス

第八條 食料ヲ官署ニ預ケザルニ由リ放釋ヲ得タル負

債者ハ同一ノ負債ニ付キ再ヒ拘置スルコト得ス

第九條 拘置ノ期限ハ左ノ如ク之ヲ定ム

一 罰金及ヒ其他宣告セシ金額ノ五十「フラン」以下ナ

ル時ハ二日以上二十日以下トス

- 二 五十「フラン」以上百「フラン」以下ナル時ハ二十日以
上四十日以下トス
 - 三 百「フラン」以上二百「フラン」以下ナル時ハ四十日以
上六十日以下トス
 - 四 二百「フラン」以上五百「フラン」以下ナル時ハ二ヶ月
以上四ヶ月以下トス
 - 五 五百「フラン」以上二千「フラン」以下ナル時ハ四ヶ月
以上八ヶ月以下トス
 - 六 二千「フラン」以上ナル時ハ一ヶ年以上二ヶ年以下
トス
- 違警罪ニ關スル拘置ノ期限ハ五日ヲ超過スルヲ得
ス

第十條 拘置ヲ受クル所ノ囚治罪法第四百二十條ニ從
ヒ其出金ニ及ハサルヲ證明スル時ハ裁判宣告ヲ受
ケタル期限ノ半期間拘置シタルノ後之ヲ放釋ス

第十一條 拘置ノ宣告ヲ受ケタル者ハ善良ニシテ依信
スヘキト認メラルヘキ保證人ヲ立テ、其拘置ヲ辭シ
又ハ假リニ其拘置ヲ免サル、ヲ得

保證人ハ政府ニ在テハ収税官吏之ヲ允許シ人民ニ在
テハ相手方之ヲ承諾スル者トス而シテ保證人ノ可否ニ
付爭論アルキハ其保證人ハ郡ノ民事裁判所之ヲ認定
ス

保證人其保證スル所ノ金額ハ一ヶ月内ニ之ヲ拂フヘ
シ然ラサレハ告訴ヲ受クヘシ

第十二條略ス

第十三條 裁判所ハ告訴ノ時ニ年齢十六歳ニ滿タサル者ニハ拘置ヲ宣告スルコトヲ得ス

第十四條 負債者ノ年齢六十歳以上ナル時ハ其宣告書ニ定メタル拘置期限ヲ半減ス

第十五條 左ニ記列スル者ヨリ起リシ負債ノ訴ニ於テハ拘置ヲ宣告シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

一 負債者ノ配偶者

二 負債者ノ尊屬ノ親卑屬ノ親兄弟姉妹

三 負債者ノ伯叔父母伯叔祖父母甥姪姪孫并ニ右同等ノ姻屬ノ親

第十六條 同一ノ負債ニアラサル場合ト雖モ夫婦ヲ同

時ニ拘置スルコトヲ得ス

第十七條 裁判所ハ負債者ノ子ノ尙幼ナルカ爲メニ宣告書ヲ以テ一ケ年ニ過キサルノ時間拘置ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

○以上新法

新法ハ舊法ニ比スレハ概シテ大ニ寛ク加フ第九條第十條

及ヒ第十三條第十四條等ノ如キ是レ其著シキ者也然レ

モ今日ヨリ之ヲ觀レハ尙ホ完全ノ良法ト云フヲ得ス何

トナレハ償還ノ義務ヲ盡サハル者ニレテ之ヲ拘置スルカ如キハ野蠻壓抑ノ弊風タルヲ免カレサレハナリ

抑罰金ハ刑ナリ改メテ禁錮ニ換フルモ不可トセス損害ノ賠償物品ノ返還及ヒ裁判費用等ノ如キハ皆民事ニ屬

ス。前々民事上ニ拘置ヲ用フルハ曾テ不當ナリトシテ廢斥セシニ非スヤ然ルチ今又此ニ拘置ヲ用フルハ何ソヤ夫レ拘置ハ人ノ自由ヲ束縛スル者ナリ禁錮ニ非スト云クモ實ハ禁錮ト何ソ異ナラシ此ノ如キハ已ニ之ヲ刑シテ又之ヲ刑シ一犯兩刑ヲ科スルニ似タリ不當モ亦甚シト謂フベシ

第五十四條 官共罰金ヲ納ムルト原告人ニ品物ヲ還シ及ヒ損害及償ヲ爲スト相觸レテ犯人ノ財産其罰金ト其返還及ヒ償額トニ充ツルニ足ラサル時ハ原告人ヘノ返還及ヒ損害ノ償ヲ罰金ヨリ前ニ出サシム可ク罰金ト品物ノ代償貳拾五圓及ヒ損害ノ徵償ノ順序ヲ云フ

例ニハ茲ニ五十圓ノ罰金ト品物ノ代償貳拾五圓及ヒ損害ノ償貳拾五圓合シテ百圓ヲ出スルギテ唯其有ル所

害ノ償貳拾五圓合シテ百圓ヲ出スルギテ唯其有ル所五十圓止マツテ他ノ資力ナキハ先ツ之ヲ品物及ヒ損害ノ償ニ充テ後ニ罰金徵收ノ事ニ及フ然ル所以ノ者ハ罰金ハ唯政府ノ倉庫ニ納ムルノミナリテ物品及ヒ損害ノ償ノ如ク現ニ賠償ニ充ツル者ニ非ナリ故ニ法律上被害者ハ先取ノ特權ヲ與フ民法第三千九十五條ニ參照ス可シ

租賠償ノ金額ノミナ出シテ罰金ヲ納完セサル者ハ特ニ其罰金ノ未納就テ拘置セラレハ

前五十三條ニ裁判費用ノ事アリテ此ニ其處分ヲ云ハサシテ亦民法第二千九十八條ノ原則ニ據リ裁判費額ハ他ノ償還ニ先ダツテ首ニ之ヲ納メシム草案第六十條亦然

筆者問 若シ本犯身代限リヲナスノ場合ニ至テモ先取
 ノ權ハ裁判費用ニアリヤ、
 答 然リ亦民法第二千一百一十條特權順序第一項ノ原則ニ
 據ル。
 第五十五條 同一ノ重罪又ハ輕罪ニ因リ刑ヲ受ケシ各人
 ハ罰金、返還、損害ノ償、裁判所費用ヲ互ニ連帶シテ擔當スル
 シ。
 同一ノ罪ニヨリ刑ヲ受ケシ各人トハ數人ニシテ一罪ヲ
 犯セシ者ヲ云フ此時ニ在テハ其數犯人ニ於テ罰金裁判
 費用及品物ノ返還損害ノ償等全部ヲ互ニ連帶シテ負擔
 セシム故ニ數人中若シ貧困ニシテ其義務ヲ盡スル能ハ

サル者アルハ他ノ資力アル者ニ其義務ヲ盡サシムル
 ヲ得ス。
 例セハ茲ニ三名連帶ノ犯罪ニ至リテ三拾圓ノ罰金ヲ科
 セラル、トアランニ内二名全ク資力ナキハ他ノ一名
 其全額三拾圓ヲ出スノ類。
 故ニ富者ト貧人ト共犯セル場合ニ在テハ其罰每ニ富者
 ノミニ係リテ貧者ニ及ハサルノ情アリ此ノ如キハ豈公
 正ト云フヲ得ンヤ且ツ罰金ヲ連帶セシムルハ甚ク不正
 ナリ若シ他ノ實決ノ刑ニ於テ此例ニヨリ一人ニシテ共
 犯數人ノ刑ヲ受クヘシトセハ人誰カ之ヲ正當ト云フ者
 アラシム。
 凡ソ連帶シテ義務ヲ負擔スルコトハ別段契約アルヲ要ス

民法第千二百條及ヒ
第千二百二條等參觀ス可シ

第四十回 明治十二年七月八日

(草案)第三十三條 罰金ノ科數ハ二圓以上ト爲シ各本條

ニ於テ其多寡ヲ區別ス

◎以上本條

本條罰金ノ最下數ハ二圓トナス者ハ違警罪科料ノ一圓

九拾五錢以下タルヲ以テナリ

凡ソ罰金ハ單ニ之ヲ科シ或ハ實決ノ刑ニ附科シ其用廣

シ然ルニ其最下數ノミヲ示シテ高額ヲ限ラサルハ汎ニ

似タリト雖モ各本條ニ於テ別ニ金額ノ制限ヲ設ケタル

決○以○テ○判○官○唯○其○限○域○内○ニ○於○テ○斟○酌○加○減○ス○ル○ヲ○得○ル○ノ○ミ○

決○ノ○擅○横○ナ○ル○ヲ○能○ハ○ス○故○ニ○汎○ト○ナ○サ○ス○

各條定ムル所概ニ寬ニ屬ス唯其國事犯ニ五千圓ヲ科ス

ル者是レ草案中罰金ノ最高額トス

佛刑罰金ノ高額ヲ定メサル亦草按ト同シキ者アリ刑典

上得テ之ヲ見ルヘシ請フ諸君ノ説ヲ聞カン

答 第一百七十四條ノ類ヲ云フカ

曰然リ百七十七條ノ如キモ亦是也此レ皆豫メ金額ヲ限

定セズ其聚斂若クハ納賄等ノ高ニ應シテ科スルカ故ニ

其額ハ幾千萬フランクニ至ルアルモ未ダ知ル可ラサレ

ハナリ

聞ク草案ヲ起スニ當リ右等ノ罰金ハ都テ佛刑ニ依ル可

キヤノ論アリシカ其實際頗ル煩累ニ涉レルヲ以テ遂ニ
 之ヲ取ラスシテ豫メ金額ヲ限定スルニ至レリト
 論者或ハ佛刑ノ大ニ法理ニ反スルヲ批難スル者アリ曰
 ヲ今坊間ニ於テ人ノ携帯スル所ノ金數千圓ヲ掏摸セシ
 者ト兇器ヲ持シテ人家ニ侵入シ脅嚇シテ僅ニ一二圓金
 ナ奪ヒ去リシ者アラソニ其罪孰レカ重キヤ法律ニ據レ
 ハ強盜ヲ以テ重シトス此レ罪ヲ擬スルハ專ラ其情狀ノ
 如何ニ在リテ贓金ノ多寡ニ在ラス人ヲ殺傷スル者モ亦
 其情狀ノ如何ニヨラサルモノナシ是レ一般ノ原則ナリ
 然ルヲ獨リ聚斂納賄等ノ罪ニ限リ此原則ニ背戻スルハ
 何ソヤト
 此說一理ナキニ非スト雖モ未ダ變通ノ理ヲ知レル者ト

セ○ス○何○ト○ナ○レ○ハ○佛○刑○百○七○十○四○條○及○百○七○十○七○條○ノ○如○キ○ハ○
 特○例○ト○看○做○サ○ル○ヲ○得○サ○レ○ハ○ナ○リ○
 夫レ官吏ニシテ聚斂等ノ事アリ貪婪厭ヲナキハ其情狀
 實ニ憎ム可ク決シテ假貸ス可キ者ニ非ス取ル所愈多ク
 ハ科スル所亦愈重キハ此レ亦一種然ルヘキノ法ニシテ
 常例ヲ以テ視ル可キ者ニ非ス故ニ必スシモ法理ニ反ス
 トセス
 (草案)第三十四條 罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納
 完セシム若シ限内完納セサル者ハ一圓ナ一日ニ折算シ
 之ヲ輕禁錮ニ換フルヲ得但一圓以下ト雖モ仍ホ一日
 ニ計算ス
 罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒテ檢事ノ求ニ

因リ裁判長官之ヲ命ス
 本犯又ハ親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納完スル時ハ其經過
 シタル日數ヲ扣除シテ禁錮ヲ免ス
 ○以上本條
 此罰金ヲ科スルノ處分方ヲ示ス
 罰金ハ通常裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ
 限内ニ納完セサル時ハ更ニ輕禁錮ニ處ス其換刑ヲ要求
 スル者ハ檢事ニシテ之ヲ命スル者ハ判官トス
 此ノ如クニシテ一タヒ禁錮セシ者ト雖ヒ其或ハ罰金
 ヲ納ルヽアレハ亦其禁錮ヲ免ス是レ其刑本ト罰金ヲ主
 トスルニ因ル
 夫レ罰金納完ノ期チ一月内トシテ直ニ之ヲ徵收セサル

ハ法ノ寛ナル者ニシテ情理トモニ宜チ得タリト謂フ可
 シ
 又其之ヲ換科スルヲ得セシムルモ亦大ニ用意ノアル
 所ニシテ當務者ヲシテ實際ノ情況ヲ斟酌シ適宜執行セ
 シメシカ爲ナリ
 此ニ檢官ノ活用ヲ要スル者アリ禁錮ノ猶豫是也
 例セハ今マ若干圓ノ罰金ヲ科セラレシ者限内不幸ノ災
 厄ニ罹リテ之ヲ納完スルヲ得サルノミナラズ一錢ノ貯
 蓄ナキニ至ルヲアラン然ルニ其人素ヨリ名工ノ稱アル
 ヲ以テ檢官タル者姑ラク之ニ猶豫ヲ與ヘテ工業ニ就カ
 シムレハ其金額ヲ辨スルハ決シテ難キニ非スト見込
 ハ假令其定限外ニ出ツルヲアルモ猶禁錮ニ處セズレト

之レカ納完ヲ待ツ是レ本犯ニ在テハ禁錮ノ屈辱ヲ免カ
 レ官ニ在テハ罰金ヲ徴収スルヲ得兩全ノ處置ト謂ヘ
 シ佛國ノ徵償ニ於ケル往々此ノ如キノ活用アリ蓋シ法
 律ノ明許スル所ニ非スト雖モ亦變通ノ一良方ナリ
 凡ソ刑ハ所犯ノ情狀ニヨリテ輕重アルハ言ヲ待タスト
 雖モ判官タル者亦其本犯ノ身分及ヒ生産等ニヨリテ
 酌スル所アルヘシ罰金ニ於テハ最モ然リトス故ニ貴族
 顯官若クハ富豪者ノ如キハ之ヲ彼貧賤寒微ノ徒ニ比ス
 レハ其科數自ラ多寡ノ差ナキト能ハス
 夫レ此ノ如キハ一ニ嚴ニシテ一ニ寬ナリ此レ其裁判公
 平ヲ失フカ如クナレモ貴賤貧富地位ノ異ナルヨリ加ア
 リ減アルハ又自然ノ事ナリ決メ公平ヲ失フ者ト謂フ可

カラス

換刑ノ法タル一方ヨリ觀レハ富貴ナル者ノ罰金ヲ納ル
 ハ甚タ易キヲ以テ其禁錮ヲ受クルカ如キハ固ヨリ之
 レナキモ貧賤者ニ在テハ罰金ヲ納ルハ頗ル難キカ故
 ニ遂ニ概子禁錮ヲ受クルニ至ル然ルキハ貧者ハ其始メ
 寬ナルカ如キモ終ニ拘繫ノ辱ヲ被ルヲ以テ却テ嚴ニ歸
 スルニ似タリ然レトモ亦一方ヨリ觀レハ貧賤者ニ在テ
 ハ習慣地位富貴者ト其趣ヲ異ニシ金額ヲ出スハ頗ル難
 シヲ禁錮ヲ受クルハ却テ易キノ情アリ兩狀ヲ合テ之
 チ觀レハ權衡自ラ平ヲ得タリト云フ可キカ
 抑草案ノ佛刑ノ外ニ出テ、別ニ此換刑ノ法ヲ立テ所
 以ノ者ハ他ナシ佛刑宜ヲ得サル所アレハナリ夫レ佛刑

ハ定度ナク徒ニ拘留ヲ以テ罰金不納者ヲ強迫スルハ過
 キ大此レ獨リ法律ノ公正ヲ缺クシテ無カラス無カラス
 テ空シク拘繫ノ苦楚ヲ受ケシタ又ハ奸黠者ヲシテ拘繫
 テ幸トシテ巨額ノ罰金等ヲ免カシムルノ弊アルヲ
 草案ノ之ヲ取テザルハ卓見ト謂フ可シ
 (草案)第三十五條 罰金ヲ實決ノ刑ニ併科シタル時完納
 セサル者ハ刑期滿限ノ後ニ於テ之ヲ禁錮ニ換フ
 此レ他ノ實決ノ刑ニ併科セシ罰金ヲ納完セサル者ハ處
 分ヲ云フ此等ノ事ハ特ニ明言ヲ俟タサル者ノ如シト雖
 モ亦之ヲ揭クルノ盡セルニ如カス但其處分方法ノ如キ
 ハ前條ノ例ニ據ル

第四十一回 明治十二年七月十七日

(草案)第三十六條 拘留ハ拘留場ニ留置ス其刑期ハ一日
 以上十日以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其長短ヲ區別ス
 此レ違警罪拘留ノ事ヲ云フ
 拘留ハ刑中ノ最モ輕小ナルモノニシテ固ヨリ服役アルニ
 非ス且拘留所ノ如キモ特別ニ違警犯ヲ爲メニシ之ヲ
 設ケテ他ノ罪犯ト混同セシメス
 若シ特別ノ拘留所ナケレハ其拘留人ヲ輕罪禁錮所等ニ
 入ルコトモ房中必ス經界ヲ立テ之ヲ別異ス
 其異居ヲ要スル者ハ元來違警犯ハ概テ過誤失錯等ヨリ
 生シ彼社會ヲ害シ道德ヲ傷ヘルノ惡漢無賴徒ト同視ス
 可ラサレハナリ

且拘留ハ佛語之ヲ「アノ」ト云フ古昔佛國庶人貴族ニ論
 ナク共ニ科スル所ノ刑ニシテ未タ之ヲ以テ人ノ榮譽ヲ
 玷ス者トセス
 例セハ日本ニ於テ從前閉門謹慎ト稱セシカ如キ是ナリ
 其特ニ懲戒ノ細ナル者タル知ル可シ
 本條拘留ノ長期ヲ以テ十日ト爲スハ佛刑違警禁錮ノ長
 期ニ比スルハ重キヲ加フ此レ違警罪中ニ於テ其情狀重
 ク罰セザルヲ得サル者アルノミナラス再犯加等ノ如キ
 ニ至テハ最モ嚴マセサル可カラサル者アレハナリ
 例モハ草案違警罪目ニ人家稠密ノ場所ニ於テ火器ヲ玩
 ヲテ禁ス此レ其規則ニ背反スレハ頗ル危險ノ畏レアル
 ヲ以テ之ヲ罰スル嚴ナラサルヲ得ス故ニ三日以上十日

以下ノ拘留ニ處スルナリ 草案第四百七
 然ルニ佛刑ニ於テハ之ヲ罰スルニ通常一ラフ以上五
 フラン以下ニ以テセリ 佛刑第四百七
 草案ト佛刑ト其權衡此ノ如キノ異ナルアリ他尙ホ佛刑
 ノ寛ニ過キテ反テ實際ニ適應セサル者ヲ舉ン
 佛ノ行政警察上ニ於テ夜中珈琲湯ヲ賣ルノ規則アリ 珈
 湯店ハ即チ多クハ密 犯ス者ハ惟科スルニ五フランノ罰 珈
 賣淫ノ巢窟ナル者 犯人僅ニ五フランノ罰金ヲ出シテ幾倍
 金ヲ以テス故ニ犯人僅ニ五フランノ罰金ヲ出シテ幾倍
 ノ利ヲ獲レハ獨リ懲戒ノ効ナキノミナラス反テ其法ヲ
 侮慢スルニ至ル
 草案深ク此ニ見ルアリ故ニ惟罰金ヲ科スルノミナラス
 併セテ拘留ノ刑ヲ科セリ

且再犯加等ニ於ルモ佛刑ハ五日以上ニ過クルヲ得ス亦
 何シ寛ニ過クルノ甚シキヤ蓋シ再犯者ノ如キハ有心故
 造ヲ看做サルヲ得ス故ニ草案ハ加等二十日ニ至ル此
 皆其宣キニ適クト云フシ
 (草案)第三十七條 科料ノ科數ハ五錢以上一圓九十五錢
 以下ト爲シ仍ホ各本條ニ於テ其多寡ヲ區別ス
 ○以上本條
 科料ハ即チ違警罪ノ罰金ナリ
 科料ノ額ヲ五錢以上一圓九十五錢以下トナス者ハ輕罪
 罰金ノ二圓以上ナルモリ權衡ヲ立ツ
 前回來數ヲ講セシカ如ク違警罪ハ概チ懈怠失誤ヨリ偶
 然法網ニ觸ル者ニシテ事最モ微小ナレハ其之ニ科ス

ル宜ク寛且輕ナルヘシ
 然カソ刑ハ素ヨリ刑ナリ故ニ違警罪ノ微小ナルモ再三
 之ニ觸ルハアレハ則チ重キヲ加ヘサルヲ得ス
 且科料ト雖モ未チ全ク易々ナリトセス何トナレハ假令
 最下ノ五錢タルモ其處分ヲ受ルカ爲メニ之カ時間ヲ費
 シ之カ業ヲ廢ス本人ニ在ツテハ失フ所實ニ小々ニ非サ
 レハナリ
 (草案)第三十八條 科料ハ十日内ニ納完セシム若シ納完
 セサル者ハ第三十四條第三十五條ノ例ニ照シ之ヲ拘留
 ニ換フルヲ得
 此ノ科料ノ納完期限及ヒ其之ヲ納完セサル者ノ處置ヲ
 示ス

夫レ輕罪ノ罰金ニ於ケル猶換科ノ法アリ違警罪ニシテ
 此ノアル固ヨリ其宜キナリ然ルニ其換科法輕罪ニ同フシテ唯金額納完ノ期限ニ
 然ルニ其換科法輕罪ニ同フシテ唯金額納完ノ期限ニ
 長短ノ別アリモソハ罰金ハ其額稍大ニシテ科料ハ小ナリ
 第三十四條第二項ニ裁判長官之ヲ命ストアルヲ以テス
 レハ本條ハ違警罪裁判所長之ヲ命スルヲ以テス
 之ヲ求メテ者モ亦通常重輕罪裁判所ノ檢事ニ非ス其任
 三充ル者ハ警察使是レナリ
 本條ニ於テ全ク草案主刑ノ事ヲ講了ス之テ要スルニ第
 十七條乃至三十八條ハ重罪輕罪違警罪三種ノ主刑ノ事
 ヲ列載ス倫次察然實ニ明盡ト云フヘシ

第三節附加刑處分

(草案)第三十九條 剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一 政權及ヒ國民ノ特權
- 二 現任官職及ヒ將來官吏ト爲ルノ權
- 三 勳章位記貴號ヲ有スルノ權
- 四 日本國內ニ於テ外國ノ勳章ヲ帶ルノ權
- 五 兵籍ヲ入り及ヒ兵器ヲ帶ルノ權
- 六 證據ヲ申告スルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ
 在ラズ
- 七 後見人及ヒ其監察人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ
 人子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラズ

八分散人又ハ會社及ヒ共益財產ノ支配人管財人ト爲ル
九學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

○以上本條
此レ佛刑ノ公權剝奪ト大同小異ナル者ナリ猶各項
テ之ヲ詳カニセシ
此刑ノ目的タル犯人ノ榮譽ヲ褫奪スルニ在リ然レモ亦
併セテ一身ノ生利ヲ失スルニ至ル者アリ
蓋シ此刑ヲ本犯ノ生利ヲ損害スルカ爲メニ非スト雖モ
亦勢ヒ止ヲ得サル所アリ例セハ官吏トナルノ權ヲ奪ハ
ルハ特ハ獨リ其顯榮ノ路ヲ絶ツノミニ非ス併セテ其俸
給ヲ得ルヲ能ハサルカ如シ

故ニ其榮譽ヲ失スルハ直接ニシテ生利ヲ害スルハ間接
ニ屬ス
公權トハ私權ニ對スルノ詞ニシテ其國內人民同シク有
スル所ノ權利ノ謂ナリ日本人ハ則チ日本人一般ニ有ス
ル所ノ權利アリ佛人ハ則チ佛人一般ニ有スル所ノ權利
アリ政權ノ如キ是ナリ
私權トハ人民相互關係ノ間ニ有スル所ノ權利ニシテ概
シテ之ヲ云ハ民權ニ外ナラス例セハ日本人ト外國人
ト契約ヲ爲スカ如キ此レ公權ニ非スシテ私權ナリ外國
人ト雖モ亦此權ヲ有スルヲ得
然ルニ又外國人ノ有スヘカヲサル者アリ土地所有ノ如
キ是ナリ外國人地主トナルノ權ハ日本政府ニ在テハ居

留地内繰カニ之ヲ有スルヲ得ルノミ米國ノ如キハ全ク
 之ヲ許サス英國ハ十年以前始テ之ヲ許ス佛及ヒ獨逸ハ
 古來禁スル所ニアラス是ヲ以テ之ヲ觀レハ公權ハ國民
 一〇般ニ有スル所ニシテ外人之ヲ有スルヲ得サルモ私權
 ハ外人或ハ之ヲ有シ或ハ之ヲ有スル能ハサルモゾアリ
 國民ノ特權トハ何ソ陪審及ヒ代言人等ニ任スルノ權是
 ナリ(特權トハ歐文章案ニ生質及ヒ法律ニ由テ任スルノ
 權トアリ)
 官職及ヒ官吏ハ歐文章案ニハ官員及ヒ屬員トアリ官員
 トハ政府ノ一部分ニ當リ其務メヲ行フ者ニシテ屬員ハ
 則其意ヲ承ケテ之ヲ助クル者ナリ此事嘗テ佛刑ニ講セ
 シヲ以テ復々贅セス但官員犯罪ノ訴ハ裁判所其官員現

在ノ地位ニ隨テ之ヲ審ス此レ被告人ハ無罪視スルノ原
 則アルニ由ル若シ其然ラスシテ先ツ其官職ヲ褫奪セン
 ニハ他日問糾ノ後無罪ニ歸シテ放免セラルハトアレハ
 判官タル者之ヲ如何スヘキヤ故ニ問糾シテ重罪ニ歸ス
 ル者ハ法律上其官職ヲ褫奪ス輕罪ニ歸スル者ハ宣告書
 ニ併セテ免職ノ旨ヲ記シテ之ヲ付ス
 勳章及ヒ位記ハ已ニ之ヲ褫奪スレハ獨リ之ヲ帶ヒ之ヲ
 稱スルヲ得セシメサル而已ナラス政府之ヲ還納セシム
 貴號トハ所謂何族ト稱シ又ハ何博士ト稱スルノ類ニシ
 テ或ハ一家子孫ニ及フ者アリ或ハ一身ニ止ル者アリ
 外國ヨリ受クル所ノ勳章ハ之ヲ帶ルヲ得セシメス然レ
 亦之ヲ官ニ追収セス外國政府ヲ敬スルヲ以テナリ若

シ外國政府本人ノ此刑ヲ受ケシヲ聞テ之ヲ収ムルヲ
 アレハ又敢テ拒ム所ニアラズ
 兵籍ニ入ルノ權ヲ奪フハ本人ニ在テハ反テ輒チ脱スル
 ノ情アリテ刑ノ効力ヲ失フ者ノ如シ此レ亦嘗テ佛刑ニ
 講スレハ復タ贅スルヲ用ヒス
 兵器ハ刀劍及ヒ銃器等ヲ總稱ス然レモ帶劍ノ如キハ其
 禁ヲ受クルモ更ニ得失ナシ故ニ此レ專ラ獵銃ヲ指ス夫
 レ一獵銃ト雖モ嚴ニ之ヲ犯人ニ禁スル者ハ豫シテ其暴
 動ヲ防禦スルナリ
 證據人トナリ及ヒ證據ヲ申告スルヲ禁スルハ犯人ノ權
 ナク剝奪セシト欲シテ反テ害ヲ他人ニ及ホス者アリ此レ
 亦嘗テ佛刑ニ講セシカ如シ

後見人及其監察人タルノ權ヲ奪フカ如キ亦其人ヲ懲戒
 スルニ當ラズノ反テ害ヲ他ニ被ラシムル者アリ
 茲ニ一ノ例外トスヘキ者ハ假令ヒ其權ヲ剝奪セラレ
 者ト雖モ己レノ子孫ノ爲メニ後見人ニ任スルヲ得ル是
 ナリ此亦已ニ佛刑ニ於テ講セリ
 支配人トハ佛ノ「サンヂユック」ニシテ分散人アル時ニ當
 リテ其財產ヲ支配計算スル者ヲ云
 管財人トハ佛ノ「アドミニストラートル」ニシテ即チ財產
 管理者ヲ云フ商會或ハ會社等ヲ設立スルニ當リ之レカ
 長トナリテ其財產ヲ管理スルナリ
 佛國ニ分散處分ヲ以テ營業トスル者アリ蓋シ頗ル利益
 アルモノトス

會社トハ佛ノ「ソシエーテ」「ユルボラアシヨ」ニテ此二
 者ハ同一ニシテ即チ組合商業ヲ爲ス者是ナリ
 共益財産トシテ電信鐵道航海鑛山等人民共同シテ其利益
 ヲ圖ル者ヲ云銀行ノ如キモ亦然リ
 學校長及ヒ教師學監ハ獨リ官立學校ニ之アル以テナラ
 ス私立學校ト雖モ亦之アリ其權ヲ剝奪セラル者ハ官私
 ナ論セズ其職タルコトヲ得ス
 但其私邸ニ招請セラレテ教授ヲ爲スカ如キハ之ヲ禁ス
 ルニ非サルモ多衆ヲ會シ公然教師トナルハ假令私邸
 ルモ亦之ヲ爲スコトヲ得サルナリ
 以上公權剝奪ノ何物タルコトヲ説明ス以下其施行ノ事ヲ
 説明セシメ其詳ニハ別紙ニシテ示スルコトナリ

欠

MISSING

グロース氏佛蘭西刑法講義

○第四十六回 明治十九年七月二十九日

本日ハ前回ノ講餘草案第五十五條ニ就テ尙之ヲ論說セ
ン

第一禁制ノ物件トハ例セハ應禁ノ兵器器具淫猥ノ圖畫
文書偽造貨幣印紙等ノ如キ凡テ公衆ノ安寧ヲ妨ケ風教
ヲ亂ルノ物件ニ係ル

此等ノ物ハ都テ法律上禁制スル所ニシテ社會中一日モ
存ス可カラサルモノトス故ニ其之レアルニ當テハ何人
ノ有タルヲ問ハス皆直ニ之ヲ沒收ス其一時他人ヨリ付
托セラレ若クハ領置中ニ係ル者モ亦同シ
且獨リ其犯罪ニ就テ之ヲ沒收スルノミナラス如何ナル

場○合○ト○雖○モ○亦○同○ク○之○ヲ○勾○收○ス○ル○ヲ○得○例○セ○ハ○今○他○ノ○犯○罪
者○ア○リ○其○家○宅○ヲ○搜○索○ス○ル○ニ○當○リ○所○謂○應○禁○ノ○物○品○ア○ル○ヲ
見○レ○ハ○假○令○其○本○犯○ノ○事○件○ニ○關○係○ナ○キ○モ○臨○檢○官○吏○直○ニ○之
ヲ○勾○收○ス

故○ニ○禁○制○物○件○ニ○就○テ○ハ○沒○收○ト○云○ハ○ソ○ノ○ヨ○リ○ハ○寧○ロ○勾○收○ト○
云○フ○可○シ○凡○ソ○淫○猥○ニ○係○ル○書○畫○器○具○ノ○類○ハ○官○ニ○沒○收○ス○ル○
ニ○非○ス○止○タ○官○之○ヲ○勾○收○シ○テ○直○ニ○破○毀○ス○ル○ニ○過○キ○サ○レ○ハ○
ナ○リ○

茲○ニ○一○ノ○附○言○ス○可○キ○者○ア○リ○本○文○法○律○ニ○背○戾○シ○テ○製○造○若
ク○ハ○發○布○シ○及○ヒ○保○有○ス○ル○物○件○第○一○件○曰○歐○文○草○案○ニ○ハ○本○條
教○師○此○云○々○ト○是○ナ○リ○其○製○造○ト○云○ヒ○發○布○ト○云○フ○實○ハ○差○異
說○ア○リ○云○々○ト○唯○其○品○質○ニ○因○テ○法○律○上○自○ラ○稱○呼○ヲ○別○ツ○ノ○例
ア○ル○ナ○シ

セ○ハ○兵○器○ノ○如○キ○ハ○製○造○ト○云○ヒ○貨○幣○ノ○如○キ○ハ○偽○造○ト○云○フ
而○シ○書○籍○ニ○在○テ○ハ○製○造○ト○云○ハ○ス○ノ○發○布○ト○云○フ○稱○ス○ル○所
異○ナ○リ○ト○雖○モ○其○義○一○ナ○リ
第○二○犯○罪○ノ○用○ニ○供○シ○タル○物○件○ト○ハ○都○テ○其○犯○罪○ヲ○行○フ○カ
爲○メ○ニ○用○ヒ○タル○所○ノ○器○具○物○料○ヲ○云○フ
例○セ○ハ○持○兇○器○強○盜○ノ○槍○刀○若○ク○ハ○夜○盜○ノ○牆○壁○ヲ○踰○ユ○ル○ニ
用○ヒ○シ○梯○子○又○ハ○偽○造○貨○幣○ノ○模○型○ノ○類○是○也
第○三○犯○罪○ニ○因○テ○得○タル○物○件○ト○ハ○贖○金○ヲ○以○テ○得○タル○正○金
若○ク○ハ○貨○物○又○ハ○偽○證○ヲ○爲○シ○テ○獲○タル○所○ノ○謝○物○又○ハ○不○正
ニ○屬○ス○ル○賄○賂○ノ○金○額○物○品○等○ヲ○云○フ
然○ル○ニ○第○二○第○三○ノ○兩○件○ニ○在○テ○ハ○他○人○ノ○所○有○ニ○係○ル○者○ハ
沒○收○ス○ル○コト○ヲ○得○ス

例○セ○ハ○夜○盜○ノ○墻○壁○ヲ○踰○ユ○ル○ニ○用○ヒ○シ○梯○子○ハ○其○際○隣○家○ヨ○
 リ○持○來○リ○タル○者○ニ○シ○テ○全○ク○本○犯○ノ○所○有○物○ニ○非○ル○ノ○類○
 又○犯○罪○ニ○因○テ○得○タル○物○件○即○盜○贓○物○ノ○如○キ○ハ○止○タ○其○所○有○
 主○ナ○キ○時○ノ○ミ○之○ヲ○沒○收○ス○
 其○犯○罪○ニ○因○テ○直○ニ○譯○者○曰○歐○文○草○案○ニ○ハ○直○ア○リ○得○タル○云
 々○ノ○語○輕○々○看○過○ス○可○カ○ラ○ス○所○謂○直○ニ○ノ○二○字○ハ○大○ニ○用○意
 ノ○ア○ル○所○ナ○リ
 例○セ○ハ○今○貨○幣○ヲ○偽○造○シ○之○ヲ○用○ヒ○テ○衣○類○若○ク○ハ○器○具○等○ヲ
 購○求○ス○ル○者○ア○ラ○ン○ニ○其○貨○幣○偽○造○ハ○是○レ○犯○罪○ニ○シ○テ○其○貨
 幣○ニ○因○テ○得○タル○所○ノ○者○ハ○是○レ○犯○罪○ニ○因○テ○直○ニ○得○タル○物
 件○ナ○リ
 又○賄○賂○ヲ○得○テ○偽○證○ヲ○ナ○シ○タル○者○ノ○如○キ○其○得○タル○所○ノ○金

額○若○ク○ハ○物○品○ハ○即○偽○證○ノ○犯○罪○ニ○因○テ○直○ニ○得○タル○モ○ト○
 ス○如○此○類○皆○是○也○
 而○ノ○此○等○沒○收○ニ○係○ル○金○額○ハ○皆○官○庫○大○藏○ニ○納○付○シ○又○器○物
 ノ○如○キ○ハ○之○ヲ○公○賣○シ○金○額○ニ○代○ヘ○テ○同○シ○ク○之○ヲ○納○付○ス
 又○其○得○ル○所○ノ○間○接○ニ○係○ル○モ○ノ○ア○リ
 例○セ○ハ○偽○造○貨○幣○ヲ○以○テ○得○タル○物○品○ヲ○賣○却○シ○更○ニ○土○地○若
 ク○ハ○家○屋○等○ヲ○購○求○シ○又○ハ○偽○證○ヲ○ナ○シ○テ○得○タル○金○額○ヲ○以
 テ○貨○物○ヲ○買○得○シ○復○之○ヲ○賣○却○シ○テ○得○タル○所○ノ○金○額○ノ○類○是
 ナ○リ
 此○ノ○如○キ○間○接○ニ○得○タル○所○ノ○モ○ノ○ハ○如○何○ン○カ○之○ヲ○處○ス○ヘ
 キ○ヤ○若○シ○已○ニ○一○旦○本○犯○ノ○手○ヲ○離○レ○テ○他○ニ○移○レ○ル○者○ヲ○一
 々○沒○收○ス○ヘ○シ○ト○ナ○サ○ハ○事○頗○ル○煩○苛○ニ○涉○ル○ノ○ミ○ナ○ラ○ス○或

ハ數年ヲ經テ發覺セシ犯罪ニ在テハ轉輾交換遂ニ其贓品ノ現在ヲ究索スルヲ能ハス故ニ草接特ニ直ニノ語ヲ用ヒテ其間接ニ係ルモノハ沒收ノ限リニ在ラサルヲ明示セリ。

佛刑ノ如キハ此等ノ明文ナキヲ以テ其如何ヲ確知スルニ由ナシ請フ佛刑第十一條ヲ參看セヨ曰ク政府ヨリ別段犯人ノ監視ヲ爲ス事、罰金ヲ言渡ス事、犯罪ニ關シタル犯人ノ所有物又ハ犯罪ニ因リ得タル物件又ハ犯罪ニ用ヒ或ハ用ヒントセシ物件ヲ別段沒收スル事ハ重罪又ハ輕罪ノ別ナク通シ用フ可キ刑ナリト

此レ佛刑ハ第一ニ文章上大ニ錯雜ヲ免カノス即チ監視ノ事ト罰金ノ事ト沒收ノ事トノ三件ヲ合記シタル是也

而シテ其犯罪ニ關シタル犯人ノ所有物トアルハ草案ノ第一禁制云々ノ件ニシテ其事亦頗ル不備ニ屬ス

何トナレハ犯罪ニ關シタルトノミアリテ其禁制ニ係ル物品ノ處置如何ヲ明示セス且犯人ノ所有物ト限レルヲ以テ其犯人ノ所有ニ非ルヨリハ之ヲ沒收スルヲ得サルカ如ク係ル所甚タ狭シ

又犯罪ニ因リ得タル物件トアリテ直ニノ語ナキヲ以テ其直接ニ得タルト間接ニ得タルトノ分界頗ル漠然ニ屬ス然ルニ判決例ニ據レハ其間接ニ得タル所ノモノハ沒收ノ限ニ在ラズ而シテ法律上ニ明示セサル者ハ亦欠點タルヲ免レズ

抑間接ニ係ル者ヲ沒收セストハ被盜人ノ損失ハ舍テ顧

ミサルモノ、如シト雖決シテ然ルニ非ス若シ其物件ヲ消費セシ場合ニ於テハ本犯ヨリ代料ヲ以テ賠償セシムルナリ

例セハ盜アリテ他ノ時計ヲ竊ミ之ヲ賣却シ遂ニ其現在ノ所ヲ知ラサルコトアラシ此際本犯物品返還ノ訴ヲ受ケ現物ヲ還付スルコト能ハサレハ代料ヲ以テ之ヲ賠償セシムルコトヲ得然ラハ其惟々被盜主ノ損失ニ付シテ願ミサルニ非サルヤ知ルヘシ是レ其文異ナリト雖モ其精神ニ於テ草案佛刑共ニ同キモノトス

且草案五十五條ノ但書ニ所謂法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者トハ例セハ稅關ノ規則若クハ郵便罰則印稅規則ノ類是也此等ノ事ハ時々變更ヲ要スル者ニ

ニシテ其沒收ノ方法モ亦自ラ異ナルヲ以テ之ヲ一定ノ刑典ニ載セスシテ別ニ之ヲ規則ニ定ム

佛國モ亦此例アリ煙草ニ關スル規則ノ如キ其一也佛國ニ於テハ煙草ヲ輸入スルハ最モ嚴禁ナルヲ以テ若シ潛カニ之ヲ輸入スル者アルハ獨リ其煙草ヲ沒收スルノミナラス之ヲ輸送シタル車馬ノ如キモ皆併セテ沒收ス殆ント日本ノ鴉片煙ニ於ケルト相似タリ

要スルニ本條但書ノ主意特別ノ規則アル者ハ其レニ據リテ處分シ此刑典ヲ適用セスト云フニアルノミ

(草案)第五十六條 重罪ノ刑ノ宣告書ハ之ヲ摘撮シ左ノ各所ニ榜示公告ス但其摘撮書ハ本犯ノ姓名年齡職業住所及ヒ罪狀刑名ヲ記載ス

一 裁判宣告ノ地
 二 犯罪ノ地
 三 犯人最終住居ノ地
 輕罪ニ於テハ本條別ニ記載シタルニ非サレハ之ヲ
 榜示公告セス

榜示公告ハ本犯ニ痛苦ヲ與フルノ意ニアラス只其罪狀
 ヲ世上ニ公布センカ爲メノミ此レ其心ヲ誅スル者ニシ
 テ即チ加辱ニ係ル
 此レ重罪ニ在テハ皆之ヲ用フト雖モ輕罪ハ則チ唯其罪
 ノ種類ニ因リテ特ニ之ヲ用フルモノトス例セハ腐敗ノ
 飲食物ヲ販賣シ若クハ偽造ノ尺度量衡ヲ用ヒテ物ヲ賣

リシ者ノ類是也

故ニ此等ノ商業者ニ於テ一旦右ノ如キ不正ノ所爲アリ
 テ處刑セラル、キハ大ニ世人ノ信用ヲ失フニ至ル
 又公權ヲ奪ハレタル者ノ如キモ亦之ヲ公告ス然ルキハ
 世人皆其失權者タルヲ認知スルヲ以テ他日或ハ法律ヲ
 犯シテ其權ヲ行ハントスルモ誰カ敢テ之ヲ許サン
 其摘撮書ノ例及ヒ公告場ノ如キハ曩キニ佛刑第三十六
 條ニ於テ講セシ者ト異ナルヲナケレハ今復タ贅セス

第四十七回明治十二年八月一日

第四節 徵償處分

譯者曰此ノ徵償ノ語歐文章案ニハ裁判費用及ヒ民事

ノ賠償トアリ其義見ルヘシ

〔草案〕第五十七條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

○ 此レ犯罪ヨリ生スル所ノ裁判ノ費用ハ其本犯ニ於テ必ス負擔辨償スヘキノ義務アルヲ示ス
本犯ヲシテ此義務ヲ負擔セシムルハ固ヨリ當然ノ事トス佛語之ヲ「ジユスチース」ト云フ蓋シ公道ノ義ナリ佛國民法第千三百八十一條ニ云フ何事ニ因ラズ人ニ損害ヲ加フル所行ヲ爲シタル時ハ其償ヲ爲ス可シト此レ其淵源スル所カ

蓋シ刑事裁判ノ費用ハ素ト犯罪ニ因テ生ス故ニ其本犯ヲシテ之ヲ償ハシム
然レモ檢官若クハ判官ニ於テ誤テ無罪者ヲ拘繫シ或ハ勾喚シタルカ爲メニ費用ヲ生セシカ如キハ其本人固ヨリ辨償ノ義務ヲ有スルヲナシ
夫レ裁判費用ノ事タル固ヨリ主刑ニ非ス亦附加刑ニ非ス唯一ノ民事タルニ過キス故ニ其期滿免除ノ如キモ總テ民事ノ方法ニ依リ刑ノ期滿免除ニ依ラサルナリ
然ルニ裁判費用ノ辨償ハ其裁判落着ノ時ニ當リ刑ト與ニ宣告ス可キヲ以テ特ニ之ヲ刑典ニ明示シテ判官ニ便スルノミ
凡ソ刑事ノ裁判費用トハ何等ノ生質ニシテ何等ノ爲メ

ニ要スルヤ請フ諸君ノ所見ヲ聞カン
 答 犯罪糺治ノ爲メニ證人ヲ喚徴シ若クハ使吏ヲ使用
 シ其他調書ヲ裁スルカ如キ皆其費用ヲ要スル者カ
 曰然リ然ラハ使吏ハ何等ノ爲メニ之ヲ置キ又何等ノ事
 ナ執ラシムルヤ
 答 使吏ハ專ラ召喚狀ヲ書シ及ヒ之ヲ傳達スル等ノ事
 ニ從フ者カ
 又問 檢事ノ外尙ホ他ニ裁判費用ヲ要求スルヲ得ル者
 アリヤ
 答 被害人即チ民事ノ原告人之ヲ要求スルヲ得ルカ
 曰然リ故ニ裁判費用ハ分テ二途トス一ハ政府ニ收ムル
 者一ハ人民ニ償フ者政府ニ收ムヘキモノハ檢事ニ於テ

證人ヲ喚徴シ或ハ鑑定人ヲ要スルカ如キ是ナリ人民ニ
 償フヘキ者ハ民事原告人ニ於テ檢事ト同シク證人ヲ喚
 致スルカ如キ是ナリ
 其費目ハ前ニ示スカ如ク證人ヲ喚徴シ證書ヲ記シ及ヒ
 鑑定人ヲ要スル等ノヲナリト雖モ通例檢事ノ求ムル所
 ヲリモ其額少シトス此費用ハ犯人ヨリ被害人即チ民事
 原告人ニ返償スヘキモノトス
 然ルニ其費時アリテ頗ル巨額ニ上ルヲアリ即チ重大事
 犯ノ如キ其黨類及ヒ連累ノ衆多ナル往々各地ニ搜出シ
 或ハ之ヲ數百里外ヨリ引致スル者アラシク而シテ其證人等
 モ亦之ヲ各地ヨリ召喚セサルヲ得ス故ニ其費用ハ檢
 事ニ屬スルト民事原告人ニ係ルトシテ論セス皆有罪者ノ

辨償ニ歸ス若シ被告ノ無罪トナルキハ檢事又ハ民事原告人ノ辨償セサルヲ得ス但シ檢事ノ辨償ハ則チ政府ノ損失ニ歸ス

諸君ニ問フ裁判費用ノ全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科スルトハ何等ノ時ニ於テ此區別制限ヲ要スルヤ

答 貧富ノ區別若クハ犯狀ノ輕重アリ以テ此制限ヲ要スル所カ

曰然ラス此レ自ラ他ノ理由アリ

所謂幾分トハ概チ其過分ノ費用ヲ要スルニ當リテ裁判官特ニ課スルニ其緊要ナル部分ノミヲ以テシテ冗費ニ屬スルモノハ之ヲ除クヲ云フ請フ其例ヲ舉テ之ヲ明カサン

今毆傷ヲ被ル者アリ其犯罪人ノ何クニ在ルヲ知ラスシテ之ヲ檢事ニ訴ヘン檢事被告人所在ノ明カナラス且證跡ノ曖昧ナルヲ以テ其訴ヲ拒斥セシニ被害人自ラ其所
在ヲ搜索センカ爲メニ遠邇ヲ論セス各地ニ電信ヲ通シ
郵書ヲ發シ若クハ人ヲ差遣セハ其費固ヨリ小ナラス
此ノ如キハ被害人故ラニ過冗ノ費額ヲ要セシ者ナレハ
裁判所ハ之ヲ適當ノ費額ニ節減セサルヲ得ス蓋シ此
等ノ場合ニ當テハ被害人タル者本犯ノ所在現ニ長崎ナ
ルヲ知ルト雖モ故サラニ之ヲ知ラサルマ子シテ函館
或ハ新潟等へ報信セルカ如キヲナキヲ保タス
此等ノ出費ハ實ニ無用ニ屬スル者ニシテ佛語之ヲ「フ
ト」ト云フ瑣々タル小事ヲ以テ枉テ巨犬ノ事

ト爲シ爲メニ費額ヲ増加セシムルノ謂ヒナリ蓋シ俚諺ニ所謂針小ヲ變シテ棒大ト爲スト是ナリ
其他違警罪ヲ以テ輕罪トシ輕罪ヲ以テ重罪トシテ之ヲ
亂治セシ場合ノ如キハ其費自カラ冗贅ニ涉ル者アルニ
至ル此レ檢事ト雖モ或ハ免カレハト能ハス豈制限ナカ
ル可ケンヤ

其別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムトハ使吏ノ備價證書類ノ印
稅證人ノ旅費日當及ヒ鑑定人ノ手當等皆之カ定則ニ據
リ之ヲ算決スルヲ云フ

(草案)第五十八條 犯人ヲ刑ニ處シ又ハ放免スト雖
モ被害者ヨリ犯人及ヒ民事擔當人ニ對シ贓物ノ還
給損害ノ賠償ヲ請求スルノ障礙ト爲ルヲナシ

還給賠償ノ請求ハ刑事裁判所ニ於テ民法ニ從ヒ之
ヲ審判スルヲ得

○ 裁判費用ノ刑罰ニ非ルハ前キニ之ヲ説ケリ還給賠償ノ
刑罰ニ非ル亦知ルヘシ

贓物ノ還給トハ例セハ竊取セシ所ノ物品ヲ物主ニ返還
スルヲ云ヒ損害ノ賠償トハ其物品ヲ竊取スルカ爲メニ
事主ニ被ラセシ所ノ損害ヲ賠償スルヲ云フ故ニ還給賠
償ノ二事ハ犯人ヲ刑ニ處シ若シハ放免スルモ其償還ヲ
請求スルノ妨ケト爲ルヲ得ス此レ其刑罰ニ非ルヲ證
スルニ足ル然レトモ亦必ス宣告スルヲ要ス
夫レ刑罰ト還給賠償トノ區別スル斯ノ如シ故ニ刑罰ハ

社會ヲシテ其意ヲ満足セシメント欲スルノ目的ヲシテ
 即チ其罪債ヲ償フニ在リ還給賠償ハ被害者ノ意ヲ満足
 セシムルニ在リ一ハ以テ社會ノ爲メニシ一ハ以テ被害
 者ノ爲メニス二者其ノ一チ欠クヘケンヤ
 說テ此ニ至レハ刑ニ處セラレシモノト雖モ還給賠償ノ
 逃ルヘカラサルハ已ニ明カナラン以下無罪ニ歸シテ放
 免セラレル者モ亦尙還給賠償ノ責ヲ辭スルヲ能ハサル
 ノ理由ヲ説カシ
 夫レ無罪ニ歸シテ放免セラレシ者ノ如キハ其刑已ニ消
 滅セルニ非スヤ然ルニ尙ホ還債ニ逃ル、一能ハサル所
 以ノ者ハ蓋シ法律上其罪ヲ免セラル、モ其痕跡猶ホ消
 絶セス且他ノ有ヲ以テ己ノチ富スノ理由ナケレハナリ

例セハ甲乙二人同所ニ於テ各々米倉ヲ有スルアリ甲人
 ナシテ夜中其米穀ヲ出サシムルニ其人誤テ乙ノ倉中ニ
 就テ之ヲ出ス乙怒リ訴フルニ竊盜ヲ以テス判官之ヲ問
 亂シ其實ニ過失ニ係ルヲ以テ其罪ヲ免セシ
 此レ其夜中人ノ倉ヲ發イテ穀物ヲ出スハ其事竊盜ト異
 ナラサルモ其情全ク誤認ニ出ツルヲ以テ實ニ罪スヘキ
 者ナシ然レモ其誤テ出シ所ノ穀物ハ之ヲ其乙ニ還付
 セサル可カラヌ又之レカ爲メニ乙ニ損失ヲ蒙ラシムル
 アレハ亦之ヲ償ハサル可カラヌ是レ當然ノ理ナリ
 其還給賠償ノ責ニ任スヘキ者ハ犯人歐文草案ニ正及ヒ
 民事擔當人トス擔當人トハ父母ノ子ニ於ケル主人ノ使
 僕ニ於ケルカ如シ皆其還債ノ義務ニ任スル者ナリ

例セハ將ニ人ノ饗宴ニ赴カントシ先ツ其僕ヲシテ往ヒ
 テ之ヲ助ケシメシニ僕忽然盜心ヲ發シ私カニ其器物ヲ
 竊スミ去ラシ如斯ハ其責全ク其雇主ニ歸ス其物品ノ還
 給賠償雇主之ヲ擔當セサルヲ得ス
 然レモ若シ甲タル者乙ノ僕ヲ雇フテ己ノ饗宴ヲ助ケ
 シムルノ際ニ當リテ此事アラハ乙ハ其責ニ任セス其失
 其得一ニ甲ニ歸スヘシ
 第二項ハ還給賠償ノ請求ハ刑事法庭ニ於テ直チニ民法
 ニ從ヒ處分スルヲ得ルヲ云フ蓋シ一ノ刑事裁判所ニ
 シテ二箇ノ務ヲ有ス一ハ刑事ノ審判ヲ爲シ一ハ民事ノ
 判決ヲ爲ス其刑事ハ則チ刑法治罪法ニ依リ民事ハ則チ
 民法ニ依ル是レヲ定則トス

第四十八回明治十二年九月十日

(草案)第五十九條 同一ノ犯罪ニ因リ宣告シタル裁
 判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ犯人及ヒ民事擔當
 人互ニ連帶シテ之ヲ償フ可シ
 然レモ犯人及ヒ擔當人ノ情狀ニ因リ裁判所ノ宣告
 ヲ以テ其連帶ヲ制限シ又ハ解除スルヲ得但其事
 由ヲ宣告書ニ記載ス可シ

前第五十七條ハ裁判費用ノ犯人ニ科ス可キヲ示シ第五
 十八條ハ其或ハ放免セラル者モ亦還給賠償ノ責ヲ免
 ルヘキニ非ルヲ示ス本條ニ至リテハ共犯ニ係ルノ裁判

費用及還給賠償等ヲ其共犯人ニ連帶セシムルヲ云フ
 蓋シ本條ハ前各條ニ比スレハ一層ノ嚴ヲ加フ即チ其義
 務ヲ數人ニ分擔セシメサル者アル是ナリ
 茲ニ三人ノ共犯アリ裁判所ニ於テ同一ノ刑ヲ宣告シ且
 同シク犯罪ヨリ生スル損害ノ賠償ヲ命スルニ甲乙共ニ
 資力ナク獨リ丙ノ資力ヲ有スルキハ其甲ト乙トノ賠
 償ス可キヲモ併セテ丙ニ擔當辨償セシム之ヲ連帶ノ賠
 償ト云フ
 然レモ丙他日甲乙ニ對シ各自分擔ノ金額返償ノ訴ヲ民
 事裁判所ニ爲スヲ得ヘシ蓋シ丙ハ法律上ノ定規ニヨ
 リ必ス裁判所ニ對シテ一時其義務ヲ盡サハルヲ得サ
 ルモ後日之ヲ他ヨリ取返スハ法律ノ許ス所ナリ

歐文章案第一項擔當人ノ下法律上自然ト云フカ如キノ
 語アリ是レ同一ノ犯罪ニヨリ還給賠償ノ宣告ヲ受タル
 者ハ別ニ宣告ヲ要セス自ラ連帶ノ義務アルヲ云フ然ル
 ニ法律上自然ニ連帶ノ義務ヲ擔當セシムルヲ得ルハ惟
 刑事ニ之レアリ民事ハ則チ然ラハ蓋シ推測ヲ以テ連帶
 ノ義務ヲ負ハシム可カラサルハ民事ノ原則ナリ故ニ必
 ス其契約アルノ外法律上ヨリ連帶ヲ命スルヲナシ
 故ニ金銀貸借ノ如キハ其契約ノ初ニ當リ必ス連帶ノ有
 無ヲ契約書ニ明記スルヲ要ス例セハ甲乙兩人ニテ丙
 リ金百圓ヲ借用センニ其契約書ニハ必ス兩人ノ連借ナ
 ルカ又ハ各自五拾圓ツ、チ分借スルカチ明記スルノ類
 是ナリ

此レ民事ハ當初ノ契約ニ由テ其義務ヲ定ムルカ故ニ刑
 事ノ推測ヲ以テ連帶ノ義務ヲ負擔セシムルカ如キニ非
 サレハナリ
 第二項ハ犯人及擔當人ノ情狀ニヨリテ制限解除ノ事ア
 ルヲ云フ
 例セハ甲乙丙共同シテ盜犯ヲ爲スニ甲乙二人ハ家中ニ
 入リテ金或ハ物品ヲ取り去ラントスルノ際家主覺テ之
 ナ捉ヘントスルヲ二人遂ニ家主ヲ殺シテ其盜ヲ遂ケ丙
 一人ハ終始外ニ在テ瞭望ス此ノ如キハ其賠償ニ於ケル
 甲乙ニハ其幾分ヲ加ヘ丙ニハ其幾分ヲ減シテ各之ヲ負
 擔セシムヘシ此レ連帶ノ義務ヲ制限スルノ一例トス蓋
 シ瞭望者ハ惟タ盜ヲ爲スニ與ミシテ人ヲ殺スノ事ニ關

セサレハナリ
 然ルニ當初共犯ノ目的ナルモ遂ニ各其罪質ヲ異ニスル
 ニ至ルヲアリ例セハ三人同シク盜ヲ爲サントシテ人家
 ニ潛入センニ一人ハ財物ヲ奪掠シ一人ハ家主ヲ殺シ一
 人ハ家女ヲ強姦ス此レ其罪質既ニ同カラサレハ亦其賠
 償ヲ連帶セシム可カラス故ニ此時ニ當ツテハ各自ニ之
 ナ負擔セシム或ハ特ニ其一人ニ負擔セシムテ餘ノ二人
 ニ止マ其殘額ノ一部ヲ連帶セシム之ヲ名ケテ連帶ノ解
 除ト示フ
 其事由ヲ宣告書ニ記載スルヲ要スル所以ノ者ハ判官ヲ
 シテ隨意ニ處分スルヲ得サレシメンカ爲メナリ
 抑佛刑五十五條ニ罰金連帶ノ事アリテ草案ニハ其事ヲ

○
シ此レ嘗テ佛刑ニ於テ論辨セシカ如ク甚不正ナリト云
フヘシ
即チ罰金モ刑ナリ刑ハ一身ニ止マルヲ原則トス如何
シ之ヲ連帶セシムルヲ得ンヤ是レ草案ノ宜キヲ得タル
所以ナリ

(草案)第六十條 犯人及ヒ民事擔當人ノ財産當然償

フ可キ金額ニ充ルニ足ラサル時ハ左ノ順序ニ從テ

之ヲ徵償ス

一政府ニ納ム可キ裁判費用

二人民ニ償フ可キ裁判費用

三民事ノ賠償

四罰金

○

此レ犯人等ノ財産賠償ニ充ルニ足ラサルノ際之ヲ徵收
配當スルノ順序ヲ示ス佛刑第五十四條ト對照スレハ本
條ノ頗ル其宜ヲ得タルヲ見ン

夫レ純然タル民事ニ在テハ負債者ノ財産一般負債ノ金
額ニ充ツルニ足ラサルキハ其債主ノ貸シタル金額ニ應
シテ之ヲ分償セシムヘシ例セハ甲ニ百圓ノ債アリ乙ニ

二百圓ノ債アリ丙ニ三百圓ノ債アリ而シテ其負債者ノ財
産百圓ニ過サルキハ丙ニ五拾圓乙ニ三拾圓甲ニ二拾圓
ノ割合ヲ以テ配當セシム其抵當物及ヒ典物アル者ノ如

キハ此限ニ在ラス
本條ハ則チ然ラス此レ佛國民法第二千九十八條等ニ依

ル。法律上先取特權ノ法是ナリ。
 其裁判費用ヲ第一トスルハ其素ヨリ官ニ於テ一時代償
 モシ所ニ官ノ費ス所ハ人民ノ税ナレハ即チ人民ニ償
 フト同一ノ理ナレハナリ人民ニ償フヘキ裁判費用モ亦
 此理ニ本少ク故ニ之ヲ第二トス其民事賠償ニ在テハ民
 事原告人等ノ損害ニ係ル故ニ裁判費用ニ次ク
 罰金ノ如キハ全ク政府ノ所得ニ歸ス所謂出ス所ナクシ
 テ得ル者ナリ故ニ最後トス
 說テ此ニ至レハ佛刑ノ不備ニシテ草案ノ完全ナル知ル
 ヘシ佛刑ニ在テハ政府ニ納ムヘキ裁判費用ト人民ニ償
 フヘキ裁判費用トヲ分別セス且其徵償ノ順序ヲ明ニセ
 ス而シテ第五十五條ニ亦民事擔當人ノ事ヲ載セス不備ナ

リト謂ハサル可ケンヤ

第四十九回明治十二年九月十二日

(草案)第六節 假出獄

茲ニ一ノ問題アリ假出獄トハ佛國治罪法百十三ニ所謂
 假リノ赦宥ノ類カ請フ先ツ諸君ノ說ヲ聞カン
 答ニ草案ノ假出獄ト佛國治罪法ノ假赦宥トハ其性質大
 ニ別アラシク假出獄ハ即チ此下六十五條ニ述ル如ク已決
 囚徒ノ能ク獄則チ護守シテ悛改ノ狀アル者ニ與フルノ
 特典ナリ假赦宥ハ未決囚人ノ訊問中一時施行スル所ノ
 事ニ係ル故ニ假出獄ハ專ラ罪囚ヲ謹慎改良セシムルノ
 誘導法ニシテ且官ヨリ特權ヲ以テ之ヲ許スノミ囚人ノ

請求スルヲ得可キ者ニ非ス假赦宥ニ在テハ唯一時ノ事
 ニ係リ且囚人ノ請求スルヲ許シ又囚人ニヨリテハ當然
 之ヲ請求スルヲ得此レ斷シテ其類ヲ同クス可キニ非ス
 曰然リ凡ソ被告人ヲ拘留スルハ其或ハ逃亡シ又ハ黨類
 若シハ外人ト通謀シテ罪證ヲ湮滅スル等ノ事アルカ爲
 メニ已チ得サルニ出ル者ナリ故ニ保證アリテ患害ナキ
 者ハ假リニ其拘留ヲ釋ク此レ赦宥ノ因テ起ル所ナリ假
 出獄ハ罪囚ヲ懲治改良スルヲ以テ目的トスル者ニシテ
 其法極メテ新創ニ係ル歐洲各國ニ在テ獨リ伊太利ノ刑
 法草案ニ之アルノミ其他未タ之レヲ見ス
 凡ソ假出獄ハ囚徒ノ刑期若干ヲ經過セシ後ニ於テ其情
 狀ヲ觀察シ假リニ處刑ヲ停止シテ出獄ヲ許ス

此ニ二個ノ利益アリ一ハ社會ノ平寧ヲ保ツニ在リ彼罪
 戻ニ係ル者ヲシテ滿刑ノ日突然直ニ社會ノ良民ニ齒
 セシメス姑ラク之カ出獄ヲ許シテ其生業ノ方途及ヒ人
 世ノ交際如何等ヲ熟察シ漸チ以テ社會ニ接セシム是ナ
 リ一ハ犯人ヲ改良セシムルニ在リ一旦罪戻ニ觸レテ處
 刑セラレシ者モ苟モ眞心悔悟スルアソハ刑期未タ滿
 マルニ繫獄ノ苦ヲ免ガルハチ得ルヲ以テ自ラ相率テ謹
 慎改良ノ念ヲ生スルニ至ル是ナリ

(草案)第六十五條 重罪輕罪ヲ犯シ實決ノ刑ニ處セ
 ラレタル者獄則チ謹守シ悔改ノ狀アル時ハ其刑期
 四分ノ三ヲ經過スルノ後獄則ニ從ヒ假ニ出獄ヲ許
 スヲ得

假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ定メタル監視ニ付ス

此重ノ罪輕罪ヲ犯シ有期ノ刑ニ處セラレシ者ニ假リ出獄ヲ許スノ事ニ係ル而メ之ノヲ允許スルハ政府ノ特權ニアリトス

譯者曰歐文草案ニハ本文獄則ニ從ヒノ下(政府ノ決定ヲ以テ)ノ語アリ

假出獄ヲ得セシムルニ二個ノ要點アリ刑期四分ノ三ヲ經過スルト獄則ヲ遵守シ峻改ノ狀アルト是也而メ其之ヲ查察シテ政府ニ申報スルノ任ハ監獄署長ニ在リ
第二項ハ假出獄ノ者ヲ特別ノ監視ニ付スルヲ云フ此レ

其尙ホ刑期未滿ノ罪囚ニ係ルヲ以テ特ニ之カ觀察ヲ加ヘサル可カラサレハナリ

本條監視ハ第四十八條通常ノ監視ト異ナリ通常ノ監視ハ一般ノ附加刑ニシテ特別ノ監視ハ行政上ノ規則ニ屬ス

故ニ特別ノ監視ハ通常ノ監視ニ比スレハ其方法頗ル嚴ナリ政府其居住地ヲ畫定シ恣ニ移轉スルヲ得サラシム此レ其常ニ舉動ヲ觀察スルニ易ク苟クモ不謹ノ事アレハ直ニ捕押スルヲ得ンガ爲メナリ其監視細目ノ如キハ五十三條ニ説ク如ク別ニ規定スル者トス

(草案第六十二條 無期ノ刑ニ處セラレタル者ハ其情狀ニ因リ二十年ヲ經過スルノ後前條ノ例ニ照シ

假出獄ヲ許スヲ得

此レ法ノ極メテ寛仁善良ナル者ナリ何トナレハ一旦無
 期ノ刑ニ處セラレシ者ヲ以テ終ニ苦楚ヲ免ガルノ日
 ナシトスルキハ彼受刑者ヲシテ望チ世ニ絶タルメ或ハ
 狂暴自カラ棄ルニ至ル然ルキハ獨リ刑ノ精神タル懲治
 改良ノ旨意ニ反スルノミナラス且ツ如何ナル禍害ヲ生
 センモ亦知ル可カラス既往ノ事徴ス可シ
 今マ本條ノ如ク無期ノ刑囚ト雖モ時アリテ出獄スル
 ノ得ヘキヲ明示スルキハ囚徒等自暴自棄ニ陷ラス各々
 望チ將來ニ屬シ遂ニ改良ニ趨クニ至ラシ此レ豈ニ寛仁
 善良ニシテ情理共ニ宜キ者ニ非スヤ

此無期刑囚ノ假出獄期限ヲ定ムルヤ無期ナルヲ以テ前
 條ノ例ニ倣フコトヲ得ス或ハ云フ有期刑ノ最長期四分ノ
 三以上ヲ以テス可シト然ルニ有期刑ノ最長期ハ二十年
 ナレハ其四分ノ三ハ則十五年ニシテ四分ノ三以上トス
 レハ十六年或ハ十七年若クハ十八年皆零數ニ似テ妥當
 ナラス故ニ四分ノ三ニ五ヲ加ヘテ遂ニ定メテ二十年ト
 爲セリ

(草案)第六十七條 假出獄中更ニ實決ノ刑ニ該ル重
 罪輕罪ヲ犯シタル者ハ直チニ出獄ノ効ヲ失ヒ前犯
 後犯ノ刑期間再ヒ出獄ヲ許サス

○ 凡ソ罪戾ニ觸レテ繫獄セラル者謹慎恭順深ク心ヲ悔

悟ニ存ス可キハ固ヨリ當然トス然ルニ其當然ノ事ヲ以
 テ假出獄ヲ得ルハ無限ノ恩惠ト謂フ可シ此レ其出獄ヲ
 得タル者ニ在テハ益々謹慎恭順ニシテ苟モ恩意ニ背反
 スルコトナカル可シ況ンヤ輕重罪ヲ犯スカ如キニ於テチ
 ヤ此レ之ヲ本條ニ嚴ニスル所以ナリ
 其實決ノ刑ニ該ル重輕罪云々トアルヲ以テスレハ違警
 罪ハ勿論輕罪ト雖モ其罰金ニ該ルカ如キハ出獄ノ効チ
 失フニ至ラサル知ルヘシ此レ亦大ニ用意ノアル所ナリ
 伊太利ノ草案ニハ曰ク出獄中不行狀ナル者ハ其出獄ノ
 効チ失フト所謂不行狀トハ品行ノ方正ナラサルヲ云フ
 此レ其係ル所狹キカ如クニシテ甚タ廣ク途ニ漠然限界
 ナキニ歸ス例セハ妓樓ニ遊蕩シ酒ニ沈湎シ或ハ親ニ順

ナラス兄弟ニ友ナラサル等概シテ皆不行狀ト云フチ得
 ヘシ此ノ如キハ固ヨリ不良ノ事ナリト雖モ而カモ常人
 ノ或ハ免カル、能ハサル所ニシテ必ス一ニ法律ヲ以テ
 問擬ス可キニ非ス然ルヲ獨リ之ヲ出獄者ニ責ム可ケン
 ヤ
 且夫レ桀黠ノ徒ニ在テハ外能ク修飾シテ内大ニ匪心ヲ
 懷ク者アリ又ハ平素近隣ニ善カラサルヨリ他ノ誹謗ヲ
 受クルアルモ其人未タ必シモ廢ス可カラサル者アリ要
 スルニ事ノ無形ニ属スル何等ノ明鑑カ能ク之ヲ鑒定ス
 ルチ得ン然ルニ概スルニ不行狀ノ三字ヲ以シ唯監視者
 ノ取捨如何ニ任スルトキハ其法律ノ適施寬嚴度ナク遂
 ニ擅横ニ至ラサル者幾希ナリ

今マ日本草案ハ實決ノ刑ニ該レル云云ノ明文アレハ必
 ス○疑○義○ヲ○生○ス○ル○ニ○至○ラ○ス○假令法庭ニ引致セラル、
 ア
 ルモ其實決ニ該ラサル以上ハ出獄ノ効ヲ失フニ至ラサ
 ル知ル可シ
 出獄ノ効ヲ失フ者ハ唯其再犯處刑ノ期限ト前刑ノ餘期
 トヲ以テス可キヤ將々其出獄中ノ時間モ併セテ之ヲ失
 フ可キヤノ兩議アリ第二議ヲ可トスルノ説ニ曰一旦謹
 慎悔改ノ効ニヨリテ假出獄ヲ得ルモ若シ在外中再ヒ重
 輕罪ヲ犯スキハ其間經過セシ所ノ期限ハ更ニ償ハシム
 可シトスル時ハ彼出獄者ヲシテ大ニ戒ムル所アラシメ
 ン此レ或ハ過嚴ニ失スルカ如シト雖モ亦本犯ヲ改良ス
 ルノ一手段ナリト

余意フニ此説甚々非ナリ夫レ刑典上事ノ兩義ニ涉レル
 者ハ其犯人ニ利益スル所ニ從フ此レ其原則ナリ然ルヲ
 此ヲ舍テ、彼ニ從フハ獨リ原則ニ違フノミナラス又人
 情ニ反スト云フ可シ本條ノ意ハ決ノ論者ノ説ノ如キコ
 非ス其出獄ノ効ヲ失フハ唯將來ニアリテ既往ニ及ハサ
 ル者ト知ルヘシ
 例セハ十年ノ輕懲役ニ處セラレシ者七年半ヲ經過シテ
 假出獄ヲ得外ニ在ル半年ニシテ又禁錮ノ罪ヲ犯セルカ
 如キハ其後刑ノ期限間ト前刑期殘餘ノ二年間トヲ併セ
 テ出獄ヲ許サルニ止リ其在外半年間ノ日數ハ償ハシ
 ムルニ及ハス
 抑出獄中更ニ重輕實決ノ罪ヲ犯シテ再ヒ處刑セラレシ

者ノ如キハ復タ前日ノ恩惠ヲ被ムルヲ能ハスト雖モ其
或ハ殊功アル者ハ亦別ニ特赦減輕ノ法アリ嚴中ニ寛ア
リ寛中ニ嚴アリ操縦宜チ得タリト云フ可シ凡ソ罪惡不
良ノ徒チ遇スルハ實ニ易々ノ事ニ非ス當務者宜シテ既
往ニ鑒ミテ之カ將來ヲ圖ル可シ

グロース氏佛蘭西刑法講義

○第五十回明治十二年九月十六日

(草案)第七節 刑期消滅

凡ソ刑期ノ消滅ハ種々ノ原因アリテ尋常ノ事ニ屬スル
アリ非常ノ事ニ係ルアリト雖モ要スルニ本節列載セル
所ノ外ニ出テス

草案ハ特ニ此一節ヲ設ケテ事項ヲ詳載スルヲ以テ一目
瞭然又搜索ヲ費スナシト雖モ佛律ニ在テハ或ハ之ヲ
治罪法ニ載セ又ハ判決例ヲ以テシ頗ル不備タルヲ免レ
ス故ニ佛國ノ法學校毎ニ此ヲ以テ生徒試験ノ一問題ト
シテ其事目ヲ指說セシム此レ其原因ヲ明舉セスシテ人
之ヲ了知スルノ易々ナラサル知ルヘシ

(草案)第六十八條 主刑及ヒ附加刑ノ期ハ左ノ諸件

ニ因テ消滅ス

一 刑ノ執行終リタル時

二 本犯死去シタル時但已ニ宣告シタル罰金、科料、

沒收ハ此限ニ在ラス

三 數罪俱發一ノ重キニ從フタル者

四 將來ノ新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル

時

五 治罪法ノ規則ニ從ヒ再審ヲ以テ前判ヲ廢シタ

ル時

六 期滿免除ヲ得タル時

七 復權ノ許可ヲ得タル時

八 赦典ヲ以テ刑ヲ減輕シタル時

九 大赦、常赦、特典ヲ以テ刑ヲ免シタル時

此レ主刑及ヒ附加刑期限ノ消滅ス可キ事目ヲ舉ク

佛律ニハ唯、主刑消滅ノ場合ハ治罪法期滿得免ノ條款ニ

於テ之ヲ示シ附加刑ノ如キハ何レノ時何レノ事ニ因テ

消滅スルヤ判然ナラス或ハ主刑ノ例ニヨル可シト云フ

者アルモ亦其確憑ヲ得ス推測ヲ以テ法ノ精神ヲ求ムル

ノ外ナキノミ請フ草案ニ就テ論辯セン

第一項刑ノ執行終リタル時トアルハ此レ刑ヲ受ケ終リ

タル場合ニシテ尋常ノ事ナレハ必シモ明言ヲ俟タサル

ニ似タリ而カモ尙之ヲ掲クル者ハ其何ノ刑タルヲ論セ

ス。網羅シテ之ヲ明悉ニセシトテ要スレハナリ。即チ死刑
 ナレハ其殺ヲ了シ、有期刑ナレハ其刑期ヲ滿盡シ、罰金、科
 料ニ在テハ之ヲ納完スル等是ナリ
 既ニ刑ノ執行ヲ終レハ則チ是レ社會ニ對シテ其罪ヲ贖
 ヘリト謂ヘシ故ニ社會ノ其人ニ於ケル復タ罪人視スル
 一ヲ得ス

第二項本犯死去シタル時トアルハ此レ前項ノ場合ト同
 ク尋常ノ消滅ニ屬スルヲ尙之ヲ明示スル者ハ亦用意ノ
 アル所ナリ。往古歐洲各國ニ死者ニ對シテ刑ヲ執行セシ
 一アリ佛國ノ如キハ昔時自殺ヲ嚴禁セシカ故ニ若シ自
 殺スル者アルハ其事由ヲ揭示シテ其死體ヲ肆セリ此
 レ其意タル死者ノ名譽ヲ傷害セシカ爲メナリト雖モ終

ニ法理ニ反シ人情ニ背ケル一種野蠻ノ刑タルヲ免レヌ
 願フニ日本ニ在テモ昔時或ハ之ニ類スル者アラノ是其
 特ニ之ヲ明示スル所以カ

已ニ宣告シタル罰金、科料、沒收ノ此限ニ在ラサル者ハ此
 等ノ刑ハ初ヨリ其本犯ノ身體ニ關スルニ非スシテ其財
 産ニ對スル者ナレハナリ。故ニ本犯死スト雖モ亦本犯生
 前ノ負債ト同視シテ之ヲ追徴ス

凡ソ刑ハ一身ニ止リテ子孫ニ及ハサルヲ以テ原則トス
 然ルチ本犯死亡ノ後尙ホ其財産ニ對シテ罰金等ヲ追徴
 スルハ人或ハ其原則ニ反スルチ疑ハン而シテ是大ニ然ラ
 ス

蓋シ外面ヨリ之ヲ觀レハ其相続人ヨリ繳納スルヲ以テ

殆○ソ○ト○累○チ○相○續○人○ニ○及○ホ○ス○カ○如○シ○ト○雖○モ○其○實○ハ○相○續○人○
 ノ○財○産○ヨ○リ○之○ヲ○償○フ○ニ○非○ス○全○ク○本○犯○ノ○遺○留○財○産○ヲ○以○テ○
 支○出○ス○ル○ハ○決○シ○テ○原○則○ニ○反○ス○ル○ニ○非○ス○
 凡○ソ○財○産○ヲ○相○續○ス○レ○ハ○其○先○人○負○フ○所○ノ○義○務○ヲ○併○セ○テ○之○
 チ○擔○當○ス○ヘ○キ○ハ○一○般○ノ○定○則○ナ○リ○故○ニ○其○財○産○ヲ○相○續○セ○サ
 レ○ハ○其○義○務○ハ○必○シ○モ○擔○當○ス○ル○ヲ○要○セ○ス○又○當○初○ヨ○リ○遺○留
 財○産○ニ○テ○罰○金○等○ヲ○償○フ○ニ○足○ラ○サ○ル○時○ハ○其○財○産○限○リ○納○完
 シ○餘○ハ○債○ハ○サ○ル○ノ○約○束○ニ○テ○相○續○ス○ル○ヲ○得○然○レ○モ○其○相
 續○者○タル○子○弟○ニ○於○テ○ハ○其○親○若○シ○ハ○兄○ノ○名○譽○ヲ○補○セ○ソ○ト
 欲○ス○ル○ハ○一○般○ノ○通○情○ナ○レ○ハ○假○令○ヒ○自○己○ノ○資○産○ヲ○損○ス○ル
 アル○モ○其○不○足○ヲ○納○完○セ○サ○ル○者○ハ○蓋○シ○幾○希○ナ○リ
 情○死○去○ト○ハ○病○死○等○ヲ○云○フ○刑○死○ヲ○云○フ○ニ○非○ス○又○稱○シ○テ○本

犯○ト○爲○セ○ハ○其○審○判○ヲ○經○テ○刑○名○宣○告○ヲ○受○ケ○タル○已○決○囚○ニ○
 シ○テ○未○決○囚○ニ○ア○ラ○サ○ル○ヤ○知○ル○可○シ○
 且○未○決○囚○ニ○在○テ○ハ○公○訴○ノ○消○滅○ト○云○フ○可○ク○シ○テ○刑○期○ノ○消
 滅○ト○云○フ○ヲ○得○ス○
 右○一○二○兩○項○ノ○事○タル○佛○刑○之○ヲ○明○言○セ○ス○草○案○ノ○詳○悉○ナル
 ニ○若○カ○サ○ル○ナ○リ
 第三項數罪俱發一ノ重キニ從フタル時トアルハ此ノ頗
 ル微妙ノ理論ヲ要スル者ニシテ事モ亦輕易ナラス故ニ
 草案特ニ第七章ニ於テ之カ處分ヲ詳カニス
 此處分ノ事タル曾テ佛國治罪法第三百六十五條ニ於テ
 講明セシカ草案ハ則チ其法ニ準シテ更ニ數層ノ詳密ヲ
 加ヘ

夫レ數罪俱發トハ未タ處斷ヲ受ケサルノ前ニ曾テ犯セ
 ル數個ノ罪ノニ時ニ發顯シタルヲ云フ其之ヲ處スルニ
 當リテハ一々其罪ヲ問擬セスシテ其一ノ最モ重キ者ニ
 就テ之ヲ科罰ス即チ之ヲ刑ノ混同ト云フ例セハ禁錮、懲
 役及ヒ徒刑ニ該ルヘキ三罪一時ニ俱發セシ時ハ一ノ徒
 刑ヲ以テ之ニ擬スルカ如シ
 佛刑ニ在テハ頗ル不權衡ニ涉ル者アリ即チ徒刑ニシテ
 五年タリ懲役ニシテ十年タルヘキ者アル是ナリ是レ嘗
 テ第二十回ニ於テ講明セシカ如ク元來佛刑期限ヲ設ク
 ルノ正當ヲ失スルニ由ル
 又數罪俱發ニ二様ノ場合アリ一ハ數罪一時ニ發覺セシ
 場合ニシテ所謂一ノ重キニ從テ刑ヲ科スル者是ナリ一

ハ一罪先キニ發シ已ニ其刑ノ宣告ヲ受ケタル後他罪ノ
 發露シタル場合ニシテ此際前發ノ罪重クシテ後發ノ罪
 輕ケレハ別ニ之ヲ問ハスト雖モ若シ後發ノ罪重ケレハ
 更ニ重キニ從テ其刑ヲ科スル是ナリ
 佛國治罪法三百六十五條ニ在テハ右二個ノ場合ヲ明言
 セス故ニ唯判決例ヲ以テ之ヲ決定スルアルノミ蓋シ同
 條ハ唯其數罪ノ同時ニ發露セシ場合ノミヲ云ヘル者カ
 諸君ニ問 一旦處刑ノ宣告ヲ受ケタル後更ニ罪ヲ犯シ
 タル者ハ如何シ此レ混同ヲ以テ論ス可キヤ
 答 否チ再犯ヲ以テ論ス可キカ
 曰然リ其混同ヲ以テ論セスシテ再犯ヲ以テ論スルハ何
 ノ故ソ

答 此レ一罪處刑ノ後更ニ新罪ヲ犯スヲ以テナリ
日然リ此事頗ル論說アリ他日尙ホ各本條ニ就テ之ヲ詳
論セン

第四項將來ノ新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時
トアルハ此レ其新法ニ據ルノ原則アルヲ以テナリ此場
合ハ稀有ニ屬スルカ如クナレハ歐洲ニ在テハ往々逐次
舊刑ヲ改正ス殊ニ佛國千八百三十二年ノ事ノ如キハ其
最ナリ顧フニ日本他日新刑法發行ノ際此一項ノ最モ有
用ナルヲ見ゾ

第五項再審ヲ以テ前判ヲ廢シタル時トアルハ此レ審判
ノ事實錯誤アルノ場合ニシテ非常ノ事ニ屬ス而シテ其再
審ノ訴ヲ爲スハ確定裁判ノ後タル可シ

第五十一回明治十二年九月十九日

本日ハ草案第六十八條ノ第六項期滿免除ノ事ヨリ開說
セントス

然ルニ日本法律未タ期滿免除ノ原則ヲ示ス者アラサル
ヲ以テ姑ク佛國法律ヲ引テ之ヲ論セン
夫レ佛律ノ所謂期滿得免トハ某ノ權ヲ得ルト某ノ義務
ヲ免カルノ二義ニアリ民法第二千二百十九條ニ期滿得
免ノ權トハ法律上ニテ特ニ定メタル規則ニ循ヒ定期ノ
時間ノ經過スルニ因リ物件ノ所有ヲ得又ハ義務ヲ免カ
ルノ權ヲ云フト是レ一般ノ原則トス
此原則タルヤ外面ヨリ之ヲ觀レハ或ハ條理ニ適セサル
カ如シト雖モ其實ハ大ニ人情法理ニ合スル者ナリ

本項ハ期滿免除ニ因テ刑ヲ免ガル、ヲ得タル時ハ即チ其刑ノ消滅セシ者タルコト云フ尙ホ後條ニ於テ之ヲ詳論セン

第七項ハ犯人處刑ニ因テ失ヒシ所ノ權ノ再ヒ舊ニ復スルヲ得タル時ヲ云フ但復權ハ別ニ其程式アリ且滿刑ノ後若干年間ヲ經過スルニ非レハ得ス

第八項赦典ヲ以テ刑ヲ減輕シタルトハ例セハ有期徒刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ更メテ重懲役ニ處シタルノ類是ナリ

第九項大赦トハ佛語ニ「アムニステー」ト稱ス忘却ノ義ナリ蓋シ其刑及ヒ本犯一切ノ罪狀全ク消除シテ更ニ何等ノ形蹟ヲ存セサル者ト看做スヲ云フ

常赦、特典トハ止マ其罪ヲ恕シテ刑ヲ赦宥スル者ヲ云フ以上其大旨ヲ説ク其詳ナルハ更ニ各本條ニ就テ辯論セメ但本條一二項及ヒ七項ヲ除クノ外ハ皆刑期消滅ノ非常ニ係レル者ト知ル可シ

草案第六十九條 期滿免除ハ裁判確定ノ後刑ノ執行ヲ遁レタル者法律ニ定メタル期限ヲ經過スルニ因テ自ラ免除ヲ得ルモノトス

此レ刑ノ期滿免除ノ事ヲ云フ刑ノ期滿免除ハ民法上ト少シク異ナル所アリト雖モ其原則ニ於ケルハ一ナリ故ニ原則ヲ了解スレハ他ハ推知スヘシ
夫レ法律上ニ期滿得免アルハ其淵源亦遠シ往古希臘及

ヒ羅馬ノ如キ皆之アリ當時法律學士等已ニ此法ヲ稱シテ人事ヲ保護スル者ト爲セリ其世ニ功用アルヤ知ル可シ

曾テ佛國治罪法ニ於テ期滿得免ノ事ヲ講セリト雖其最モ必用ノ事タルヲ以テ今又此ニ辯論セン諸君彼此參觀セハ其要領ヲ得ン

凡ソ法律上期滿得免ヲ要スルハ民刑トモニ異ナルヲナシ刑事ニ在テモ一ハ他ノ公訴ヲ止ムルノ權ヲ得一ハ己レカ宣告セラレタル刑ノ執行ヲ免カス皆前文掲ル所ノ



民法得免ノ原則ニ依ル民事上ノ得免ニ於ケルハ最モ深密ナル推測ヲ要ス即チ金錢償却若クハ土地所有等ノ事ニシテ其幾十年間故障

ナシ經過セシカ如キハ其果ノ已ニ之ヲ償却セシ者ナルヤ又ハ其果ノ所有者タルニ相違ナキヤヲ案定スル是ナリ

此ノ如クナレハ唯其經過時間ニノミ權方アルカ如シト雖亦決シテ然ルニ非ス其幾年間債主ノ之ヲ放棄シテ一言ノ催促ニモ及ハサルカ如キハ則チ負債主ノ已ニ其義務ヲ盡シ若クハ義務ノ釋放ヲ得タル者ト測定スルヲ得ヘシ此レ即チ原則ノ旨趣ナリ

然ルニ之ヲ難スル者或ハ曰ン其義務ヲ盡シ若クハ義務ノ釋放ヲ得タリト測定スルニハ其確證ヲカル可カラスト然レハ是レ必ス得ル能ハサルノ事トス何トナレハ既ニ三十年ノ久キヲ經レハ其事證ハ自ラ湮

滅○ニ○屬○シ○且○雙○方○ノ○内○一○人○ニ○テ○モ○死○亡○ス○ル○カ○如○キ○ハ○事○理
 益○明○カ○ナ○ラ○ス○何○チ○以○テ○能○ク○其○確○證○ヲ○得○ヘ○ケ○ン○ヤ
 凡○ソ○物○年○所○チ○經○レ○ハ○隨○テ○變○滅○ナ○キ○能○ハ○ス○朽○蠹○ス○ル○ア○リ、
 紛○失○ス○ル○ア○リ、水○火○ノ○災、盜○賊○ノ○難○ア○リ、其○他○枚○擧○ス○ル○ニ○違
 ア○ラ○ス○ト○雖○モ○要○ス○ル○ニ○皆○自○然○ノ○數○ニ○シ○テ○人○事○上○免○カ○レ
 サ○ル○所○ナ○リ○
 然○ル○夫○其○如○何○ン○チ○問○ハ○ス○假○令○幾○十○年○チ○經○ル○モ○必○ス○義○務
 ナ○盡○サ○、ル○チ○得○ス○ト○ス○レ○ハ○人○々○危○惧○終○ニ○安○堵○ノ○期○ナ○キ
 ニ○至○ラ○ノ○
 且○夫○レ○其○已○ニ○義○務○チ○盡○シ○若○ク○ハ○釋○放○チ○得○タ○リ○ト○測○定○ス
 ル○モ○亦○故○ア○リ○何○ト○ナ○レ○ハ○權○利○者○ニ○於○テ○其○當○然○爲○ス○可○キ
 ノ○事○ヲ○爲○サ○、レ○ハ○ナ○リ○即○チ○三○十○年○間○曾○テ○一○タ○ヒ○返○金○、

要○求○チ○爲○サ○、ル○ハ○其○權○利○ナ○キ○ニ○由○ル○ト○看○做○サ○、ル○チ○得
 ス○苟○モ○權○利○ア○レ○ハ○何○ソ○其○レ○此○ノ○如○ク○棄○テ○、顧○ミ○サ○ル○ノ
 理○ア○ラ○ン○ヤ○其○年○限○内○ニ○相○當○ノ○手○續○チ○爲○ス○ヘ○キ○ハ○法○律○ノ
 明○示○ス○ル○所○ナ○リ○故○ニ○其○當○然○爲○ス○ヘ○キ○ノ○手○續○チ○爲○サ○、ル
 チ○以○テ○權○利○ナ○キ○者○ト○測○定○ス○ル○ハ○豈○ニ○不○可○ナ○リ○ト○セ○ン○ヤ
 以○上○陳○ス○ル○所○ハ○義○務○ヲ○免○カ○ル○、ノ○事○ニ○係○ル○以○下○其○權○チ○
 得○ル○ノ○事○ヲ○説○カ○ン○
 夫○レ○期○滿○得○免○ノ○例○ニ○因○リ○テ○其○所○有○權○チ○得○ル○ハ○亦○カ○ノ○義
 務○ヲ○免○カ○ル○、ト○同○一○理○ト○ス○
 此○ニ○地○所○若○ク○ハ○家○屋○チ○保○有○ス○ル○者○ア○ラ○ン○ニ○三○十○年○ノ○久
 キ○チ○經○過○セ○ル○モ○其○間○一○切○他○ヨ○リ○故○障○等○チ○受○ル○ト○ナ○ク○其
 所○有○者○タ○ル○ノ○名○義○ニ○テ○公○然○之○チ○有○セ○シ○キ○ハ○其○所○有○ノ○權

ナ得ヘシ此レ法律上ニ於テ其多年間故障ナキノ此ノ如
 キヲ以テ其果ノ所有タルニ相違ナシト測定スルヲ得ル
 ナリ
 此ノ如キ場合ニ在テハ假令他ニ眞ノ所有者アリテ其權
 ナ爭ハント欲スルモ得ヘカラス何トナレハ三十年間他
 ナシテ所有者ノ名義ヲ以テ公然其物ヲ有セシムレハナ
 リ果シテ己レ之カ所有者タラハ何ソソ三十年ノ久キ之ヲ
 知ラサルニ付セシヤ已ニ之ヲ知ラサルニ付スレハ則チ
 自ラ其權利ヲ廢棄シタル者ニシテ彼ノ義務消滅シタル
 者ト測定セサルヲ得ス此レ其終ニ如何ソ用スルヲ能ハ
 サル所以ナリ
 但借地若クハ借家人等ノ名アル者ハ右年限ヲ經過セル

モ其所有ノ權ヲ得ルヲ能ハス何ソトナレハ初メヨリ其
 借地人タリ借家人タルハ我モ人モ固ヨリ共ニ知ル所ナ
 レハナリ

筆者問 前例ノ如ク物件ノ保有者タルハ其實狀果ノ何
 如

答 譬例ヲ以テ之ヲ明カサソ

茲ニ乙アリ甲ノ家屋ヲ買得テ居住セシニ後チ其家券ヲ
 紛失セリ然ルニ數十年ヲ經過シ甲死シ其相續人偶己レ
 ノ家中ニ乙家ノ古券アルヲ見ル是ニ於テ其相續人乙家
 ナ以テ己レカ所有ナリト認テ之ヲ乙ニ照會セシニ乙答
 フルニ曩キニ之ヲ甲ヨリ買得タルヲ以テス然レモ甲
 ノ相續人ハ其家券ヲ證トシテ肯シセス遂ニ裁判ヲ法廷

コ請ヘリ乙ノ曰、是レ何年何月甲某ヨリ若干金ヲ以テ買
 得タル者ニシテ爾來今ニ至ルマテ納税其他何事タルヲ
 問ハス我所有者タルノ分ハ一トノ之ヲ盡サ、ルハナシ
 決シテ他人ノ有ニ係ルニ非ス其確證トスヘキ者ハ三十
 餘年ノ久キ未ダ曾テ一人ノ故障ヲ爲ス者アラヌ況ンヤ
 所有權ヲ爭訟スルオヤ惟、余カ持セシ所ノ家券ハ曩キニ
 之ヲ紛失セリ甲藏スル所ハ全ク甲家ノ古券タルヤ知ル
 へシト

此ノ如キハ所謂保有者タルノ一ナリ又其始メ一時他人
 ノ物ヲ管理シテ荏苒三十年間ヲ經物主、管理者共ニ死シ
 相續人ノ代ニ至リ其事ノ顛末分明ナラサルヨリ遂ニ管
 理家ノ有ニ歸スルカ如キ者アリ其類一々枚舉スルニ遑

アラス

之ヲ要スルニ嘗之ヲ前ニ忽セニスルノ致ス所ナリ己レ
 果シ純然其所有權ヲ有スレハ早ク之ヲ前ニ圖リ彼カ得
 免ノ權ヲ拒制シテ我カ所有ノ權ヲ保護セザル可カラヌ
 然ラサレハ己レ其權アルモ之ヲ得ルヲ能ハサルハ其當
 然ナリ

彼カ得免ノ權ヲ拒制スルニ二ツアリ一ハ義務者若シ其
 務ヲ盡サ、ルキハ我レ三十年内ニ之カ裁判ヲ請フヘシ
 一ハ裁判ヲ請ハサルモ民事裁判所ノ使吏ヲ經テ相手方
 ニ義務ノ催促狀ヲ送付スヘシ

假令ト何等ノ證據アルモ三十年間此手續ヲ履行セスシ
 テ漫然經過セザルハ己レカ固有ノ物ト雖モ遂ニ之ヲ失

一〇 至ル故ニ權利ヲ有スル者ハ必ス其權利ヲ保護スル
 一〇 ヲ忘ル可カラサルナリ
 以上陳スル所ハ民法ニ係ルト雖モ刑法ノ期滿免除モ亦
 全ク此理由ニ外ナラス其刑事公訴ヲ免カルハ猶ホ民
 事ノ義務ヲ免カルカ如シ蓋シ亦測定ニ由ル
 夫レ罪犯ヲ探檢公訴スルハ檢官ノ職務ニノ苟モ怠慢ス
 可キニ非ス然ルヲ檢官探檢ニ怠リテ空ク年月ヲ經過ス
 ルカ如キハ固ヨリ失錯ノ大ナル者ト謂フ可シ
 此レ其罪犯ヲ免カレシムル所以ニシテ即チ民法上權利
 者ノ自ラ其權利ヲ放棄シテ遂ニ義務者ニ其義務ヲ免カ
 レシムルト異ナラス故ニ其測定ノ起因スル所モ亦同シ
 凡ソ物ノ歲月ト推移スルヤ久シケレハ則チ變易滅盡ス

ルハ自然ノ數ニシテ山嶽、河海ノ大ナルモ亦猶ホ此變十
 キ一能ハス况ンヤ人事ニ於テオヤ
 罪犯ノ如キ現時ニ在テハ衆證據具以テ其蹟ヲ徵憑スル
 ニ足ルト雖モ歲月ヲ經過スルニ及ンテハ徵憑モ亦隨テ
 消滅シ遂ニ存スルモノナキニ至ル是ヲ以テ若干年間探
 檢ヲ免カレシ者ハ遂ニ公訴ヲ免カルヲ得セシム是レ
 其社會人類ノ安寧ヲ保スル者ニシテ亦民事ノ例ト異ナ
 ルヲナシ
 又檢官ニ於テ其免除ヲ止ムルヲ得ルノ方アリ即チ本
 犯不在ナルモ速ニ其罪證ヲ取テ欠席裁判ヲ求ムルヲ
 得是也此レ亦民事ノ得免ヲ拒制スルト一般ナリ以上公
 訴ノ事ニ係ル刑ノ免除ハ後會ニ於テ之ヲ詳論セン

○六五 第五十二回 明治十二年九月廿六日

本日ハ刑ノ期滿免除ノ事ヲ説カシ
刑ノ期滿免除ハ其由ル所公訴ト同シカラズ公訴ノ免除
ハ被告人ヲ無罪視スルニ基クト雖モ刑ハ則チ一旦裁判
所ニ於テ明白ニ有罪人トシテ宣告ヲ爲セシニ其執行ヲ
遁レシ者ナレハ時日ノ久キヲ經タルヲ以テ既ニ刑ヲ受
ケシ者ト看做スコト得ス然ラハ則免除ノ理由果ノ何如
曰ク他ナシ社會既ニ其犯罪ヲ遺忘セリト云フニ外ナラ
ス
此ニ無期徒刑ノ宣告ヲ受ケテ逃亡シ數十年ノ後ニ於テ
其踪跡ヲ得ルモノアラシニ其被害者及ヒ當時關係ノ徒
ノ如キモ或ハ既ニ死失シ又ハ移轉シテ概テ現在セズ世

遂ニ該犯ノ情狀ヲ知ル者ナシ所謂社會上其罪ヲ忘レ
リト爲ス是也

抑刑ノ目的タルハ本犯ヲ懲戒シ兼テ社會ノ安寧ヲ保護
スルニアリ故ニ罪アル者ニ於テ苟モ假借セサルハ其本
分ナリ然ルニ處刑ヲ遁カレテ數十年間ヲ經ヌリトテ反
テ之ヲ寬假スルハ怪ムヘキカ如シト雖モ蓋亦人情ニ基
クキ事理然ラサルヲ得サル者アリ何トナレハ社會ノ既
ニ忘レタル者ヲ捕ヘテ更ニ刑ヲ執行スルハ却テ社會ニ
危○懼○ヲ○生○セ○シ○メ○以○テ○其○安○寧○ヲ○亂○ス○ニ○至○レ○ハ○ナ○リ○
夫レ既ニ之ヲ刑スルモ其効ナク又之ヲ免ルスモ社會ニ
害ナケレハ此レ宜ク之ヲ不問ニ付ス可シ若シ尙ホ赦サ
スレテ之ヲ刑セハ世人ニ種々ノ感觸ヲ生シテ却テ爲メ

ニ哀憫ノ情ヲ發セシメ、此ノ如ク、ハ獨リ刑ノ目的ヲ達スルノ能ハサルノミナラス、法其活用ヲ失シ、事理ニ闕ニシテ、人情ニ反スルニ至ル。讀者其レ之ヲ玩味セヨ。凡ソ刑ノ免除ヲ得ルニ二個ノ要件アリ、一ハ全ク刑ノ執行ヲ遁レ、一ハ曾テ捕押セラレ、トナクシテ、其期限ヲ經過スル是也。

若シ其一旦刑ヲ遁ル、モ期限内ニ捕押セラレ、アレハ免除ヲ得ルヲ能ハス。此レ免除期限ノ捕押ニ因テ斷ユレハナリ。故ニ刑ノ執行ヲ遁レシ日ヨリ更ニ一ノ捕押ヲ受ケスシテ、法律上定ムル所ノ期限ヲ經過スレハ、此ニ始メテ免除ヲ得

刑ノ免除期限ヲ斷ツハ、唯一捕押ニ在リト雖モ、公訴ノ免

除期限ニ於ケルハ、獨リ捕押ノミナラス、公訴吟味等ノ如キ皆以テ、其期限ヲ斷ツヘキ者トス。此レ曾テ佛國治罪法ニ於テ講明セリ、宜シク參觀スヘシ。

(草案)第七十條 主刑期滿免除ノ年限左ノ如シ

- 一 死刑ハ三十年
- 二 無期徒刑ハ二十五年
- 三 有期徒刑ハ二十年
- 四 重懲役重禁獄ハ十五年
- 五 輕懲役輕禁獄ハ十年
- 六 禁錮罰金ハ五年
- 七 拘留料料ハ一年

凡ソ期滿免除ノ原則タルヤ古來時勢ノ何如ニ論ナク又
 何レノ國タルヲ問ハス皆同一轍ニシテ唯其期限ニ多少ノ
 區別アルノミ是レ其宜キニ適スル者タルヤ知ル可シ
 本條ハ其免除ノ期限ヲ定ムル者ニシテ其法タル佛刑定
 ムル所ト異ナリ請フ諸君其要點ヲ舉ケヨ
 答 佛刑ハ重罪輕罪違警罪ノ三者ニ因テ其期限ヲ三大
 別トシ草案ハ各刑ノ種類ニ應シテ之ヲ細別ス是レ其差
 異ノ大ナル者カ
 又問 佛刑ノ三大別トハ何如
 答 重罪ハ二十年輕罪ハ五年而シテ違警罪ハ二年ナリ
 又問 孰レカ寬嚴其宜キヲ得タリトスルカ
 答 佛刑ハ重罪犯ヲ概視スルヲ以テ死刑及ヒ無期徒刑等

ニ於テハ頗ル寬ナルカ如シト雖モ之ヲ總フルニ其實宜
 キニ適セサル者アリ草案ノ死刑及無期徒刑ニ於ケルハ頗
 ル嚴ナリト雖モ其期限各々區別アルヲ以テ權衡宜キヲ
 得タルカ如シ
 曰然リ佛刑ノ重罪犯ヲ概視シテ其刑ノ免除期限ヲ同一
 ニスルハ實ニ條理ヲ失ヘリト謂フ可シ
 草案ノ死刑及無期徒刑ニ重クスルハ決メ不條理トセス此
 レ元來期滿免除ハ上文ニ説シ如ク其犯罪ヲ遺忘セリト
 スルノ理由ナレハナリ
 凡ソ事ノ重大ナルハ人ノ之ヲ記スル深クシテ且長ク其
 輕小ナルハ之ヲ記スル淺クシテ且短クシテ此レ自然ノ理
 ナリ即チ死刑ハ事ノ最モ重大ナル者ニシテ之ヲ忘ルハ

ノ○期○モ○亦○最○モ○遠○シ○而○ノ○無○期○刑○ノ○如○キ○モ○固○ヨ○リ○之○レ○ト○同○
 視○ス○可○カ○ラ○ス○其○他○刑○ノ○種○質○ニ○隨○テ○自○カ○ラ○其○差○ナ○キ○ヲ○得○
 ス○此○レ○草○案○ノ○特○ニ○之○ヲ○鄭○重○ニ○セ○ル○所○以○也○
 輕○罪○及○ヒ○違○警○罪○ニ○在○テ○ハ○其○細○別○ヲ○要○セ○サ○ル○者○ハ○唯○其○刑○
 一○ノ○禁○錮○ト○拘○留○ト○ニ○止○マ○シ○ハ○ナ○リ○
 サ○テ○草○案○ノ○死○刑○免○除○期○限○ヲ○佛○刑○ヨ○リ○長○ク○シ○テ○三○十○年○ト○
 ス○ル○者○大○ニ○其○宜○キ○ヲ○得○タ○リ○ト○ス○例○セ○ハ○茲○ニ○二○十○五○歲○ニ○
 シ○テ○死○刑○ニ○該○タル○者○ア○リ○逃○匿○シ○テ○後○二○十○年○ヲ○經○テ○捕○押○
 セ○ラ○レ○ン○ニ○佛○刑○ニ○在○テ○ハ○則○免○除○ヲ○得○ル○者○ナ○リ○然○ル○ニ○其○
 年○正○サ○ニ○四○十○五○血○氣○未○タ○全○シ○老○ヒ○ス○身○亦○強○健○ナ○リ○既○ニ○
 死○刑○ヲ○犯○セ○シ○ホ○ド○ノ○者○ナ○レ○ハ○尙○ホ○如○何○ナ○ル○不○良○ノ○事○ヲ○
 爲○サ○ン○モ○未○タ○測○ル○可○カ○ラ○ス○草○案○ヲ○以○テ○ス○レ○ハ○其○猶○十○年○

ヲ○經○ル○ニ○非○サ○レ○ハ○免○除○ヲ○得○ル○ヲ○能○ハ○ス○人○生○五○十○餘○ニ○至○
 レ○ハ○氣○力○自○ラ○衰○へ○顧○慮○漸○ク○深○ク○隨○テ○又○悔○悟○ス○ル○所○ア○ラ○
 ン○此○ノ○如○キ○ハ○之○ヲ○不○問○ニ○付○ス○ル○モ○未○タ○必○ス○シ○モ○社○會○ノ○
 大○害○ヲ○爲○ス○ニ○至○ラ○ス○草○案○ノ○三○十○年○ト○ス○ル○者○ハ○蓋○此○ニ○見○
 ル○ア○リ○其○無○期○徒○流○刑○ヲ○二○十○五○年○ト○ス○ル○モ○亦○死○刑○ヨ○リ○比○
 較○シ○來○レ○ハ○固○ヨ○リ○不○可○ナ○キ○ナ○リ○
 然○レ○モ○此○兩○刑○ノ○免○除○期○限○ハ○唯○立○法○者○ノ○意○ヲ○以○テ○適○宜○ノ○
 度○ヲ○定○メ○シ○者○ニ○シ○テ○別○ニ○比○例○ス○ル○所○ア○ル○ニ○非○ス○有○期○徒○
 流○ヨ○リ○以○下○禁○錮○ニ○至○ル○迄○ハ○各○其○刑○ノ○長○期○ニ○準○據○ス○而○シ○
 違○警○罪○拘○留○ニ○於○テ○モ○亦○比○例○ス○ル○所○ア○ル○ニ○非○ス○拘○留○ノ○長○
 期○ハ○僅○カ○ニ○十○日○ナ○レ○ハ○別○ニ○據○ル○可○キ○所○ナ○キ○ナ○リ○
 此○ノ○如○ク○免○除○ノ○期○限○ヲ○細○別○ス○ル○ハ○歐○洲○中○其○例○少○ナ○カ○ラ○

伊太利獨逸澳土利等ノ如キ皆然リ
 或ハ刑ノ長期ヲ取テ期滿免除ノ期限ト等シクスルヲ批
 難スル者アラン曰今二十年ノ徒若クハ流ニ處セラレシ
 者逃亡シテ其刑ノ執行ヲ受ケサルモ二十年ヲ經過スレ
 ハ亦免除トナル然ルキハ尋常刑ノ執行ヲ受ケタル者モ
 又ハ逃亡シテ刑ヲ遁レシ者モ均シク二十年ニテ免除ヲ
 得此ノ如キハ甚ダ不公平ナラスヤト
 此說理アルカ如シト雖モ亦其弊ヲ觀ルニ偏シテ未タ大
 體ヲ知ラサル者ナリ凡ソ有期ノ刑ニハ皆長短期アリ判
 官其中ニ就テ更ニ刑期ヲ定ムルヲ以テ其長期ヲ科スル
 者ハ實際甚ダ少シ故ニ免除ノ期限ト刑期ト同一ナルカ
 如キハ殆ント稀ナリ

且元來期滿免除ト刑ノ期限トハ其因テ起ル所大ニ別
 故ニ假令其期限ハ刑期ニ照準スルアルモ受刑者ト對
 比シテ其寬嚴ヲ論ス可キ者ニ非ス
 若シ夫ノ有期ノ刑ニ在テハ其免除ノ期限ヲ増加シテ本
 刑ノ期ヨリ長フスルハ爲シ難キノ事ニ非スト雖モ其死
 刑及ヒ無期刑ニ在テハ之ヲ如何シテ可ナラシ論者ノ所
 謂不公平トナス者此ニ至テ窮ス若シ此二者ニ於テハ免
 除ヲ與ヘストセンカ彼レニ幸ニシテ此ニ不幸ナリ加之
 其犯罪ヲ遺忘スルノ原則ニ反ス法律上豈此ノ如キ偏頗
 ノ事アル可ケンヤ之ヲ要スルニ既ニ死刑ヲ以テ三十年
 トシ無期刑ヲ以テ二十五年トセハ有期徒流ヲ以テ二十
 年トスルハ決ノ不當ト爲サス論者ノ言ノ如キハ言フ可

クシテ行フ可ラス徒ラニ一理ニ偏スル者ト云フ可キノ

死 罰 罪

(五) 罰 罪

グロース氏佛蘭西刑法講義

〇第五十三回明治十二年九月三十日

(草案)第七十一條 剝奪公權、停止公權ハ期滿免除ヲ

得ス其餘ノ附加刑ハ期滿免除ヲ得ル左ノ如シ

一 停止私權ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

二 監視ハ第四十七條第四十八條ニ記載シタル期

限ヲ以テ期滿免除ノ限トシ輕罪ニ附加スル者

及ヒ主刑ヲ免シテ止メ監視ニ付シタル者ハ各

本條ニ記載シタル長期ヲ以テ期滿免除ノ限ト

ス

三 附加ノ罰金ハ主刑罰金ノ期滿免除ニ同シ

四 沒收ハ五年ヲ以テ期滿免除ノ限トス但禁制物

ハ期滿免除ヲ得ス
五榜示公告ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得

○ 前條ハ主刑ノ期滿免除ニ本條ハ附加刑ノ期滿免除ニ係ル而シテ附加刑ニハ免除ヲ得ル者ト得サル者トノ二種アリ
免除ヲ得サルモノハ剝奪公權、停止公權ノ二刑ナリ此二刑ハ一タヒ其宣告ヲ受クレハ到底犯者ノ身體ニ附着シ假令ヒ何クニ逃亡スルトモ終ニ免除ヲ得ルヲ能ハス故ニ本犯或ハ辭ヲ主刑ノ期滿免除ニ托シテ其公權ヲ行ハントスルモ決シテ之ヲ許サス
夫レ剝奪公權ハ無期ニシテ停止公權ハ有期ナリ其無期

ト有期ト均ク期滿免除ヲ得ストスル者ハ此附加刑ヲシテ主刑ト俱ニ期滿免除ヲ得セシムルハ現ニ主刑ノ執行ヲ受ケテ其期限ヲ了リシ者ハ仍ホ其附加刑ヲ科セラレ而シテ主刑ノ執行ヲ俾免シタル者ハ其附加刑ヲ併セテ免ル、ヲ得ルニ至リ權衡ヲ失スル甚シケレハナリ
停止私權ハ主刑ニ附着スルモノトス故ニ刑期ノ終ルヤ直ニ之ヲ復スルヲ得猶ホ病者ノ快復スレハ身體隨テ自在ナルカ如シ此レ宜ク然ルヘキノ理ナリ
監視ノ刑ハ施體ノ刑ニ屬シ公權剝停ノ刑ト其性質ヲ異ニス
監視ヲ附加スルハ其方法一ナラス法律上自ラ附加スルモノアリ又裁判宣告ヲ以テスルモノアリ又主刑トメ宣

告スルモノアリ
 然レ其場合ノ何タルヲ論セズ本犯逃亡シ若クハ恣ニ
 轉住スル等ニテ其執行ヲ免レ遂ニ捕ニ就カスシテ期限
 ナ經過スルキハ共ニ免除ヲ得
 免除期限ハ其刑ノ輕重ニ從フテ各差アリ第四十七八九
 ノ三條ヲ參觀スヘシ
 罰金ハ輕罪ニ在テハ主刑トナリ重罪ニ在テハ附加刑ト
 爲ルモ其性質ハ差異アルヲナシ唯金額ニ多寡アルノミ
 而シテ其主刑タルト附加刑タルトニ拘ラス皆一定ノ期限
 即チ五年ヲ以テ免除スヘキモノトス故ニ曰ク主刑罰金
 ノ期限免除ニ同シト
 沒收物品中ニ一般人民ノ所有スルヲ得ヘキ者ト得ヘカ

ラサル者トノ別アリ其一般ニ所有スルヲ得サル物件ハ
 期限免除ヲ得スト雖モ其他犯罪ニ用ヒ及ヒ犯罪ヨリ生
 シタル物件ハ罰金ト同ク五年ヲ以テ免除ノ期限ト爲ス
 其他尙ホ期限免除ヲ得ルモノ輸入禁止ノ物品ノ如キアリ
 例セハ現今佛國ニ於テ輸入嚴禁ノ煙草ヲ他邦ヨリ竊ニ
 他ノ物品ト詐稱シテ輸入スルヲアラン其五年ノ後ニ發
 覺スルニ至ツテハ已ニ免除期限ヲ經タルヲ以テ之ヲ沒
 收セサルノ類是ナリ
 一般人民ノ所有ヲ得サルモノハ兵器、鴉片烟及ヒ風俗ヲ
 亂スヘキ圖書或ハ偽造ノ貨幣、贗造ノ證書、印章ノ類ニシ
 テ所謂禁制品ナリ故ニ其何人ノ所有タルヲ問ハズ又幾
 百年ヲ經過シタルモ免除セス直ニ沒收セラレヘシ

榜示公告ハ本刑宣告ノ後直ニ執行スヘキモノナレハ其
 期滿免除ニ係ルカ如キハ實際稀有ノ事ナルヘシ然レモ
 尙ホ本刑宣告ノ後事務ノ紛雜ニ際シ或ハ遺忘スル等ノ事
 ナキヲ保テ難シ故ニ立法者預シメ其期滿免除アルヲ示
 シ法律ヲシテ完全ナラシム
 其事タル主刑ニ附着スルカ故ニ主刑短ケレハ隨テ短ク
 主刑長ケレハ隨テ長シ故ニ曰主刑ト共ニ期滿免除ヲ得
 ト
 草案免除ノ方法ヲ明記スル此ノ如シ佛刑ハ唯、重輕罪、違
 警罪ノ期滿免除ノミヲ示シテ附加刑、罰金ノ如キハ漠然
 トシテ其何年ヲ以テ期滿免除ヲ得ルヤ明カナラス

（草案）第七十二條 期滿免除ヲ起算スルハ裁判確定

ノ後其執行ヲ遁レタル日ヲ以テ始メトス其欠席裁
 判ニ係ル者ハ宣告ノ日ヨリ起算ス

期滿免除ノ事ハ前兩回ニ於テ詳論セシカ尙ホ茲ニ二個
 ノ注意スヘキアリ本條免除期限ノ起算方ト前七十條ノ
 免除期限ト是ナリ此二個ハ又期滿免除上主要ノ事タリ
 起算方法ノ同カラサルハ又對審裁判ト闕席裁判ト二個
 ノ場合アルニ由ル
 故ニ對審裁判ノ場合ニ於テハ其裁判確定ノ後刑ノ執行
 ヲ遁レタル日ヨリ起算ス裁判確定ノ後トハ例セハ刑ノ
 宣告ヲ受ケテ直ニ逃亡スルモノ其免除期限ヲ起算スル
 ハ其逃亡ノ日ヲ以テセス其控訴上告ノ期限ヲ經過シタ

ル○日○ヲ○以○テ○ス○其○處○刑○中○逃○亡○シ○タ○ル○者○ノ○如○キ○ハ○已○ニ○役○過○シ○タ○ル○時○日○ヲ○扣○除○シ○其○逃○走○ノ○日○ヨ○リ○起○算○ス○ル○ナ○リ○

諸君ニ問フ欠席裁判モ亦確定ノ期限アリヤ

答 此レ確定ニ至ルノ期ナカルヘシ

曰然リ草案ニ於テハ闕席裁判ヲ受シ本犯ハ概テ其刑ノ

期滿免除ノ期限ニ至ルマテ之カ故障ヲ申シ立ルヲ得ヘ

シ此レ闕席裁判ニハ確定ノ期ナキ所以ナリ故ニ其裁判

宣告ノ日ヨリ起算スルモノトセリ

筆者問 草案ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算スルノ

明文アルモ佛國治罪法第六百三十五條ニヨツテ之ヲ觀

レハ然テサルカ如シ何如
答 佛刑ハ之ヲ明記セサルヲ以テ頗ル論議アリ然ルニ

大○審○院○ノ○判○決○ニ○於○テ○ハ○皆○裁○判○確○定○ノ○日○ヨ○リ○起○算○ス○ル○者○ト○セ○リ○蓋○シ○論○者○ノ○喋○々○ス○ル○所○ノ○一○二○ヲ○舉○ク○レ○ハ○曰○佛○國○

治罪法第六百三十六條ニ終審云云トアルヲ以テスレハ

重罪モ亦同條ニ比擬シテ處分スベシ之ヲ難スル者曰ク

法律明文ナシ此レ必ス然ルヲ得ス又曰ク第六百三十六

條ニ據リ其精神ヲ求メテ之ニ比準スヘシト

此ノ如ク論議紛紜タリシモ遂ニ判決例ニヨリテ今日ノ

一定ヲ致セリ故ニ佛刑ハ草案ノ執行ヲ通レタル日ヨリ

起算スル者ト同カラス

〔草案〕第七十三條 期滿免除ノ限内實決ノ刑及ヒ監

視ヲ遁レタル者捕ニ就キ又ハ罰金科料沒收ニ該ル

者追徴ノ處分ニ及ヒタル時ハ並ニ期滿免除ノ効ヲ

失フ

本條ハ前第六十九條ヲ補足スル者ニシテ彼此相須ツテ
 用キ爲ス者ナリ
 前第六十九條ニ刑ノ執行ヲ遁レタル者トアリ故ニ期限
 内何等ノ障害ヲ受ケテ全ク其期限ヲ遁レ得タル者
 ニアラサレハ免除ヲ得可カラズ若シ其期限内捕ニ就キ
 タルハ直チニ其効ヲ失フ
 故ニ唯本犯ヲ搜索スルノミニテハ期滿免除ヲ障害スル
 事ナシ必ズ本犯捕ニ就キテ後全ク免除ノ効ヲ失ス已ニ
 其効ヲ失スルハ則チ其刑ノ執行ヲ始ムヘシ
 監視ノ刑ハ眞ニ罪犯ノ自由ヲ剝奪スルモノニ非サレト

モ亦施體ノ刑ニ準ズ本條捕ノ字ヲ下セル所以ナリ
 即チ監視ノ刑ヲ受ケタル罪犯ニシテ妄リニ居住地ヲ離
 レテ他ニ潜匿スルノ際警官ニ偵發セラレ捕ニ就クハ
 亦其免除ノ効ヲ失ス蓋シ監視ノ刑ヲ受ケタル者其指定
 ノ地ヲ出ツルハ猶ホ禁錮ノ刑ヲ受ケタル者ニシテ脱監
 セシト一般ナリ必ズ捕拿セサルヲ得ス故ニ特ニ之ヲ
 明言スルノミ
 罰金、科料、沒收ノ三件ハ民事上期滿得免ノ効ヲ失フ方法
 ト同シ歐文草案ニハ民法ノ期滿得免ノ規則ニヨルヘキ
 事ヲ記セリ此レ追徴處分云々ヲ以テ其意ヲ含有セシム
 其義異ナルアルニ非ス
 追徴ノ處分トハ裁判所ヨリ之ヲ督促シ又ハ差押人ヲ差

遣スルヲ云フ歐文草案ニヨレハ其事三ツアリ一ハ其義務アリト看認ス一ハ差押一ハ要求ノ訴是ナリ佛刑ニハ此等ノ明文ナシ面ノ其實際執行スル所終ニ此ニ外ナラス

第五十四回明治十二年十月三日

(草案)第七十四條 政府又ハ人民ニ償フ可キ裁判費用及ヒ還給賠償ノ期滿免除ハ民法ノ規則ニ從フ

此レ裁判費用及ヒ還給賠償ノ期滿免除ヲ示ス
前回ニ於テ講シタルカ如ク裁判費用及ヒ還給賠償ノ事ハ民法ニ屬シテ刑法ニ屬セス故ニ其免除期限モ亦民法

ノ規則ニ依リテ刑法ノ規則ニヨラス
然ルニ之ヲ刑法中ニ掲ケ故ラニ明言シテ民法ノ規則ニ從フト爲スモノハ此レ蓋シ立法者用意ノ周密ナル所ニシテ民刑分界ヲ明ニシ以テ判官等ノ便益ニ供セシモノナリ

(草案)第七十五條 復權ハ左ニ記載シタル年限ヲ經過スルノ後本犯ノ請願ニ因テ公權ヲ復與シ監視ヲ免スルモノトス但其法式ハ治罪法ノ規則ニ從フ

一重罪ニ附加シタル者ハ主刑消滅ノ日ヨリ五年ノ後

二主刑ヲ免シテ止タ監視ニ付シタル者ハ其確定ノ日ヨリ二年ノ後

三輕罪ニ附加シタル者ハ主刑消滅ノ日ヨリ一年ノ後

○ 譯者曰歐文章案ニハ復權ハ請願セラルヘシトアリテ必シモ請願スルモノトセス

此ノ復權ノ事ヲ云フ復權ノ事ハ佛國治罪法ニ於テ已ニ講明セシト雖也今マ復々茲ニ一言スヘシ

佛律ハ復權ノ事ヲ刑法ニ明言セスノ唯治罪法第六百十九條以下ニ掲載セリ草案ハ則チ之ヲ刑期消滅ノ部内ニ載ス。一目瞭然完全ノ法章ト云フヘシ

其復權請願ノ檢査許否及ヒ請願式ノ如キハ治罪法ニ屬スルヲ以テ此ノ唯其請願ヲ爲シ得ヘキ期限ヲ示セリ

曩ニ屢講セシカ如ク假令ヒ主刑ノ執行ヲ了スルモ附加刑ハ爲メニ消滅セス又主刑ハ期滿免除トナルモ附加刑ハ消滅セス剝奪公權、停止公權ノ如キ是ナリ
然ルニ又別ニ其消滅セサルモノヲ消滅セシムルノ方法ヲ設定セリ方法トハ何ソ復權是ナリ
復權ハ佛語「レアピリターション」ト稱ス其義ハ即チ權利ヲ回復スルノ謂ナリ
之ヲ比例スレハ復權トハ前ニ失フタル我カ能力ヲ回復スルヲニシテ猶ホ民法上ニ於テ幼者ノ自己財産ヲ管理スルヲ得サル者丁年ニ至リ後見ヲ離レテ始メテ其權ヲ執行スルヲ得ルカ如シ
復權ハ假出獄ト同ク罪犯ノ行狀善良ナル者ニ與フルノ

特典タリ然レモ假出獄トハ多少ノ差別アリ。假出獄者ハ一旦出獄ヲ得ルモ再ヒ實決ノ刑ニ該ル重輕罪ヲ犯スアレハ直ニ其權利ヲ失フ復權ハ已ニ之ヲ得レハ別ニ失フ可キノ罪ヲ犯スニ非ルヨリハ剝奪ノ事ナシ此レ其差別アル所ナリ。復權ニツキ其請願ノ程式及ヒ之ヲ檢査スル方法ハ治罪法草案第六百三十條以下ニ詳載シ且其方法ノ如キモ亦概テ佛國治罪法ニ載スル所ト同一ナルヲ以テ茲ニ之ヲ贅シス。本條復權ヲ得ルノ年限ヲ分ツテ三ツトシ各其本罪ノ輕重ニ從フ即チ五年、二年、一年トアル是ナリ。復權ハ獨リ剝奪公權ヲ消滅セシムルノミナラス停止公

權及ヒ監視ノ刑ヲモ其期限内ニ消滅セシムルトアリ

○ (草案)第七十六條 大赦ヲ受タル者ハ別ニ宣告ヲ用

ヒズ直チニ復權スルモノトス常赦特典ハ赦狀中特ニ復權ス可キヲ記載スルニ非サレバ復權ヲ得可カラス

○

大赦トハ佛語「アムニスチ」ト云ヒ特赦トハ「グラース」ト云フ此二典ノ釋義ハ草案佛刑トモニ之ヲ載セス故ニ其執行ノ方法ノ如キハ總テ漠然ニ屬ス

然ルニ佛國千八百七十五年二月廿五日ノ憲法第三條第二項ニ之ヲ明言セリ曰ク特赦ハ國長ノ權内ヲ以テ執行スルヲ得ルト雖モ大赦ニ在テハ法律ニ依ルニ非サレハ

執行スルヲ得ス。ト
之ヲ要スルニ大赦ハ國會ニ於テ相當ノ程式ヲ履踐シ議
決スルニアラサレハ執行スルヲ得ス蓋シ概テ政策上ヨ
リ出ルモノナリ

日本ニ於テハ總テ之ヲ勅裁ニ任セリ歐洲諸國ニ於テモ
大赦、特赦ハ概テ主權者等帝王ノ意ニ任スル者トス故ニ主

權者之ヲ可トスル時ハ執行スルヲ得ヘク之ヲ否トスル
キハ執行セサルヘク一ニ其所見ニ任ス

但主權者ト雖モ之ヲ獨斷專行スルニ非ス必ス各宰相ノ
意見ヲ諮詢シテ後執行スルナリ

案スルニ元來大赦即チ「アムニスチー」ハ希臘語ヨリ來レ
ル者ニシテ遺怠ノ意ヲ含メリ特赦「グラース」モ亦希臘語

ニ淵源シ赦免ノ意ヲ含メリ又特赦ニハ尙ホ一個ノ意味
アリ之ヲ「コンミューターション」ト云フ蓋シ刑ヲ換フルノ義
ニシテ減等ノ意ナリ
二語ノ差異此ノ如シ故ニ其方法ニ於テモ彼此多少ノ差
異アリ

諸君ニ問 大赦ノ適施方ハ如何

答 大赦ハ未決已決ヲ論セス併セテ之ヲ免ス者カ

曰然リ特赦ノ適施方ハ如何

答 特赦ハ一人一個ニ係ル已決ノ罪犯ヲ特別ノ理由ニ

ヨリテ宥恕減輕スル者カ

曰然リ大赦ハ都テ其罪過刑罰ヲ消滅シ復タ一點ヲ遺サ

ラシム特赦ハ則チ然ラズ請フ其區別ヲ詳述セシ

第一 大赦ヲ受ケタル者ハ再ヒ罪ヲ犯スアルモ再犯ヲ以テ論セズ。特赦ヲ受ケタル者ハ再犯ヲ以テ論シ其刑ヲ加重ス。

第二 大赦ハ其犯罪糾治ノ前後、刑名宣告ノ有無ヲ論セズ。一般ニ全ク其罪ヲ消滅ス。特赦ニ在テハ唯一時刑期ヲ減スルヲ以テ特別ニ其刑ノ宣告ヲ受ケタル者ニアラサレハ執行スルヲ得ス。

第三 大赦ハ概テ之ヲ國事犯ニ用フ。特赦ハ國事犯ト常事犯トヲ別タズ之ヲ一人一個ノ罪犯ニ適用ス。其大赦ヲ國事犯ニ用フルハ最モ善良ノ政策ト謂フヘシ。聞ク日本維新ノ際大赦ヲ行ヒ許多ノ罪犯ヲ放免セリト。佛國ニ於テ數度ノ革命アリシヨリ此例少カラズ蓋シ舊

政府顛覆スレハ新政府其前代ニ在テ己レニ黨シ刑ニ處セラレタル者ニ赦免ヲ與ヘンカ爲メニ必ス之ヲ舉行セリ。此時ニ在テハ概テ國事犯ノミニ適用ス。又常事犯ノ最輕罪犯及ヒ違警罪犯ノミニ赦免スルヲアリ。此レ概テ帝王ノ即位及ヒ后妃ノ分娩若クハ婚姻等ノ慶アルニ際シテ。舉行スルモノトス。然レ其重大ナルモノニ及ハス。但特赦ハ概テ刑ヲ輕減シ其全免スルモノハ稀ナリ。

第四 大赦ニ在テハ宣告ヲ俟タズノ復權ヲ得ルト雖モ特赦ハ赦狀中特ニ之ヲ明示スルニ非サレハ復權ヲ得サルモノトス。此レ大赦ハ罪ヲ忘レテ赦ハ刑ヲ赦スノ意ニ基クヲ以テナリ。

大赦、特赦ニ付其是非ヲ批難スル者アリ。然レモ大赦ハ政

策上已ムヲ得サルヨリ行フモノトスルヲ以テ特赦ノ如ク甚シキ論駁ナシ故ニ姑ク之ヲ舍ク其特赦ヲ批難スルノ説ニ曰ク特赦ハ主權者ヲシテ隨意ニ犯罪人ヲ免サシムルノ方法ニシテ其弊タル遂ニ司法權ヲ侵略シ其力ヲ削弱スルニ至ル今マ罪犯アリ刑ノ宣告ヲ爲シ踵ヒテ之カ赦免ヲ行フカ如キハ始メヨリ刑ノ宣告ヲ要セサルノ簡便ナルニシカス然ラハ則チ特赦ハ無益ナル者ナリ且其不正不公タルヤ同一ノ罪犯ニ一ハ赦免ヲ得一ハ赦免ヲ得サル者アレハナリト此ノ如ク論シ來レハ特赦ハ全ク用ヅル所ナキカ如クナレト決メ然ルニ非ス夫レ特赦ハ獨リ已決罪囚ヲ宥恕減輕スルノミナラス或

ハ未決罪囚ニシテ世ニ功勞アル者ナレハ其刑名宣告ノ後直チニ特赦ヲ以テ其刑ヲ減宥シ或ハ處刑中殊功アルカ又ハ嘉ミスヘキ行爲アレハ亦特赦ヲ以テ之ヲ減宥ス其同囚ノ反獄等ヲ企圖スル者アルヲ察知シテ獄司等ニ密告スルカ如キモ亦此例ニヨリ減宥スルヲ得此他尙ホ其例多シ皆一過惡ヲ以テ其善ヲ沒セス人物ヲ保愛シテ改良ノ路ヲ廣ムル所ナリ故ニ判官及ヒ陪審等ハ既ニ有罪ノ宣告ヲ爲シ更ニ特赦ヲ請願スルヲ得ルナリ此ニ由リ反覆推考スルニ特赦ハ決メ司法權ヲ侵略シテ其力ヲ削弱スルモノニ非ス亦決メ無益ト爲スヲ得ス况ンヤ不正不公ト爲スニ於テオヤ

(草案)第七十七條 大赦、常赦、特典及ヒ復權ハ勅裁ニ
非ザレバ之ヲ施行ス可カラズ

大赦、常赦、特典等ヲ總テ勅裁ニ任スル所以ノ者ハ元來裁
判宣告ハ必ス帝王ノ名ヲ以テ決行スル者ナルカ故ニ其
宣告ハ唯帝王ノミ之ヲ變更スルヲ得ヘシ
裁判宣告ニ帝王ノ名ヲ以テスルハ昔時佛國王「サノルイ」
ト云ヒシ人親カラ裁判ノ事ニ任シタリシカ一人ノ能ク
スヘキニ非サルヲ以テ特ニ判官ニ任シテ代理決行セシ
メシニ起リ爾後慣習此レニヨルナリ

第五十五回

明治十二年十月七日

(草案)第三章 加減例

○ 本章ハ刑ノ加重減輕ノ事ニ係ル佛刑亦加減ノ事アリト
雖モ草案ノ規則ヲ明示スルカ如クナラス
夫レ刑ニ加減例アルハ實際上大有用ノ事ニシテ之ヲ要
スルノ場合甚タ多シ
其一ニテ擧クシハ加重ハ再犯若クハ官吏犯罪等ノ場合
ニ在テ一等或ハ數等ヲ加フル者ナリ減輕ハ未遂犯若ク
ハ未了年者犯罪等ノ場合ニシテ一等或ハ數等ヲ減スル
者ナリ

(草案)第七十八條 法律ニ於テ犯罪ノ情狀ニ因リ一
等又ハ數等ヲ加重減輕ス可キ者ハ後ノ數條ニ記載

シタル例ニ照シテ其刑ヲ加減ス

○ 本條一等又ハ數等ト稱スル者ハ次ノ兩條ニ詳カナレハ
茲ニ贅セス

(草案)第七十九條 重罪ノ刑ハ左ノ等級ニ照シテ加
減ス但加ヘテ死刑ニ入ルヲ得ス

一死刑

二無期徒刑

三有期徒刑

四重懲役

五輕懲役

(草案)第八十條 國事ニ管スル重罪ノ刑ハ左ノ等級

ニ照シテ加減ス

一無期徒刑

二有期徒刑

三重懲役

四輕懲役

○ 此レ刑ノ加減等級ヲ示ス

先ツ重罪ノ刑ヲ大別シテ二種トス曰ク常事重犯曰ク國
事重犯二者各其刑ヲ異ニセリ

夫レ刑ノ寬嚴ハ刑期ノ長短ト其之ヲ處スルノ方法トニ
ヨルト雖モ其實ハ專ラ刑期ノ長短ニ係ル草案獨リ刑ノ
主附ヲ分ツノミナラス尙ホ常事犯ノ刑ト國事犯ノ刑ト

ナ區別ス此レ會テ第十二條ニ於テ之ヲ述ヘタリ
 既ニ常事犯ト國事犯トヲ以テ之カ區別ヲ爲セハ加減例
 ニ在テモ亦其別ナカル可カラス
 此レ其序タル第十二條ノ外ニ出ルニ非ス止テ常事犯刑
 ト國事犯刑トヲ別異シテ其階級ヲ立ツルノミ
 加減ノ序此ノ如ク整肅ニシテ其七十九條ノ但書ニ加ヘ
 テ死ニ入ルヲ得スト云ヘルカ如キハ最モ用意ノ至レ
 ルヲ見ル輕々看過ス可カラス
 所謂加重死ニ入ルヲ許サ、ルハ歐洲各國ノ法律中之
 ナ明言スル者、獨リ「伊太利」ノ刑法草案ノミニシテ其他
 ハ未タ之アルヲ聞カス
 佛刑ノ如キハ無期ノ徒刑ヨリ加ヘテ死ニ入ル者アリ實

ニ人情ニ反シ法理ニ戾レルノ甚シキト謂フ可キノミ
 夫レ死ハ刑ノ至重ナル者ナリ律文直チニ無期徒刑ノ上
 ニ在リト雖モ其實ハ兩者ノ相距ル雲泥管ナラサル者アリ
 無期徒刑ト有期徒刑トニ在テモ固ヨリ大差ナシトセス
 而カモ亦死刑ノ無期徒刑ニ於ケルカ如キノ比ニ非ス何ソ
 トナレハ生命ヲ絶ツト否トハ其輕重大小日チ同フノ語
 ル可カラス且情理上ヨリ之ヲ觀ルモ刑ノ加重ヲ以テ隱
 然死ニ入ル、カ如キハ決メ爲ス可カラサルノ事ニシテ
 必ス法律上ニ明言セサル可カラス
 今マ草案ハ故意ヲ以テ人ヲ毆傷シテ死ニ致シタル者ハ
 重懲役ニ處ス三百三十四條是ナリ而シテ豫謀ニ係ル

時ハ一等ヲ加ヘテ有期ノ徒刑ニ處ス三百三十七條是ナ
リ其三百二十七條謀殺ニ於ケルハ特ニ明言シテ死刑ニ
處スト云ヒ三百三十一條ニ至リテ前數條ニ記載シタル
罪ヲ除クノ外故意ヲ以テ人ヲ殺シタル者ハ無期徒刑ニ
處スト云ヘリ

故ニ三百三十四條先ツ其故意ヲ以テスル者ノ刑ヲ揭ケ
テ三百三十七條ニ豫謀者ノ刑ノ加等ヲ示シ而シテ三百二
十七條三百三十一條謀殺ハ唯其死刑ニ處スルト無期
ノ徒刑ニ處スルトヲ明言シテ加等ト云ハス此ノ以テ彼
佛刑ノ加重ニキリテ隱然死刑ニ入ルハカ如キノ弊ヲ防
ク所ナリ其用意ノ存スル所味ヲ可シ

(草案)第八十一條 法律ニ於テ重罪ノ刑ノ長期若ク

ハ長期以上ニ處ス可キ者減輕ス可キ時ハ其短期ニ
處スルヲ以テ一等ト爲ス

凡ソ刑ヲ加重スルニ乙刑ニ入ル者アリ(前條ノ
說ノ所是也)唯其刑ノ長期ニ處スル者アリ又其長期以上
四分ノ一ヲ加フル者アリ此ノ其寬嚴宜キニ適セシメン
カ爲メナリ

而シテ本條ハ其長期若クハ長期以上四分ノ一ヲ科スル場
合ニ於テ減輕スヘキノ情狀アル時ハ并ニ其最短期ヲ以
テスルヲ一等減ト爲スヲ云フ
故ニ今マ有期徒刑ノ加等ニテ長期二十年ト長期以上四
分ノ一ノ二十五年トニ處セラル、者アラン其減輕セラ

ル〇、〇ニ〇及〇ンテハ〇共〇ニ〇十〇六〇年トナルノ類
但此ノ如キ細事ヲ法律上ニ載スルハ煩碎ニ涉ルカ如シ
ト雖モ若シ之ヲ明示セサル時ハ判官タル者實際加減上
或ハ迷誤ナキヲ免カレサル可シ是レ其特ニ之ヲ掲グル
所以ナリ

(草案)第八十二條 輕懲役ニ該ル者減輕ス可キ時ハ
二年以上五年以下ノ重禁錮二十圓以上五十圓以下
ノ罰金ニ處スルヲ以テ一等ト爲ス
輕禁獄ニ該ル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮二十
圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處スルヲ以テ一等ト爲
ス

〇

此レ減輕シテ重罪刑ヨリ輕罪刑ニ下スノ場合ニ係ル
夫レ輕懲役、輕禁獄ハ重罪刑中最モ下級ナル者トス故ニ
其減輕ハ輕罪刑ノ禁錮ニ下サ、ルヲ得ス
然ルニ禁錮ハ五年以下十一日以上タルヲ以テ直ニ之ヲ
最短期ニ下スハ太ク寬ニ過ク者アリ是レ其特ニ制限
ヲ立テ二年以上五年以下及ヒ二十圓以上五十圓以下ト
スル所以ナリ
此制限ハ輕罪犯ニ適用スヘキ刑中ニ於テ最モ重キ所ノ
者トス
其輕懲役ヲ重禁錮ニ輕禁獄ヲ輕禁錮ニ下ス者ハ又常事
犯ト國事犯トヲ區別スル所ニシテ其並ニ罰金ヲ補科スル
者ハ刑ノ寬嚴宜キヲ得セシモノカ爲メナリ

此ノ如シ重罪刑ニ輕罪刑ニ下シ輕罪刑ニ上シ違警罪ヲ上シ輕罪トシ
ニ下スハ法律ノ許ス所ナレハ違警罪ヲ上シ輕罪トシ
輕罪ヲ上シテ重罪トホカ如キハ決メ爲スヲ得ス此
ノ即チ前七十九條ニ説キタル所ノ無期徒刑ヨリ加
死刑ニ入ルハ得サルト一般ナリ

(草案)第八十三條

禁錮、罰金ニ該ル者減輕ス可キ時

ハ其刑期金額ノ四分ノ一ヲ減スルヲ以テ一等ト爲
シ其加重ス可キ時モ亦四分ノ一ヲ加フルヲ以テ一
等ト爲ス其加減ノ法ハ禁錮ノ長期短期罰金ノ多數
寡數ヲ併セテ之ヲ加減ス
輕罪ノ刑ハ加ヘテ重罪ニ入ルヲ得ス但禁錮ノ刑
期ハ加ヘテ七年ニ至ルヲ得

○

此ノ輕罪刑ノ加減例ニシテ其加減ハ重罪ト異ナリ即チ
禁錮、罰金共ニ其刑期金額ノ四分ノ一ヲ増減スルヲ以テ
一等トス重罪刑ノ如ク其刑ヲ變更スルヲ得ス然レモ
極減シテ違警罪刑ノ拘留料ニ下スハ法律ノ許ス所
在リ

所謂併セテ之ヲ加減ストハ茲ニ二年以上五年以下ノ禁
錮ニ該ル可キ者アランニ之ニ其四分ノ一ヲ加フレハ二
年六月以上六年三月以下トナリ又之ヲ減スレハ一年六
月以上三年九月以下トナル是ナリ

故ニ判官ハ法律ニヨリテ其刑ノ長短期ヲ加減スルヲ此
ノ如ク而シ其長短兩期ノ間ニ就キ適宜斟酌シテ其犯罪

ニ適當スヘキ刑ヲ宣告スルナリ
 第二項ハ加重ヲ制限スル者ニシテ假令ヒ其加重數回ニ
 至ルアルモ長期ヲ上シテ七年以上ニ至ルヲ得サルヲ
 云、他ハ本文ニ明カナリ
 佛刑ニ於テハ輕罪禁錮ノ刑ヲ加重シテ定期ノ二倍十年
 〇〇至ルヲ許ス此レ少シク重キニ失スルカ如シ草案ハ
 其宜キヲ得タリト謂フ可シ

グロース氏佛蘭西刑法講義

○第五十六回 明治十二年十月十日

(草案)第八十四條 禁錮罰金ヲ減盡シ仍ホ減等ス可
 キ時ハ拘留科料ニ處ス

此レ輕罪ノ刑ヲ減シテ違警罪ノ刑ニ至ルヲ云フ
 即チ輕罪ノ刑ニ該ル者其情狀甚タ輕キハ降シテ違警罪
 ノ刑ニ處セサルヲ得ス猶ホ重罪ノ刑ヲ減盡シテ輕罪ノ
 刑ヲ科スルト同シ

(草案)第八十五條 拘留科料ニ該ル者加減ス可キ時
 ハ禁錮罰金ノ例ニ照シ其四分ノ一ヲ加減スルヲ以
 テ一等トス

拘留ノ刑ハ加重シテ二十日ニ過ルヲ得ス減輕シ
テ一日以下ニ降スヲ得ス
科料ハ加重シテ三圓九拾錢ニ過ルヲ得ス減輕シ
テ五錢以下ニ降スヲ得ス

此レ違警罪ノ刑ノ加減例ヲ示ス

其加減ノ方法ハ輕罪ノ禁錮罰金ノ例ニ同シ其加重シテ
二十日ノ拘留三圓九拾錢ノ科料ニ至ルハ本刑ノ區域ヲ
超ルモ其性質ヲ變スルニ非ス仍ホ是レ違警罪ノ刑ナリ
然ルニ其一日以下五錢以下ニ降スヲ得サルハ其遂ニ
懲戒ノ効力ナク殆ント刑ヲ科セサルト一般ナルニ至ル
ヲ以テナリ

(草案)第八十六條 禁錮拘留ヲ加減スルニ因テ其期
限ニ零數ヲ生シ一日ニ滿サル者ハ之ヲ除棄ス

第六十一條刑期計算ノ場合ニ於テ其零數ヲ除去スル
ヲ説ケリ本條ハ同條ノ原則ニ基キタルモノナリ
例セハ禁錮拘留ヲ加減スルニヨツテ二十日半若クハ六
日半トナリタルハ其半日ヲ除棄シテ二十日若クハ六
日トスルノ類此レ不理ナルニ似タレ此ノ如クセサル
ハ其放免ノ或ハ夜半ニ際スル等ノ煩ヲ生スルヲ以テ
ナリ

(草案)第八十七條 附加刑ハ單ニ加減スルヲナシ其
主刑ヲ加減スル時ハ附加刑モ亦之ニ從フ

重罪ニ附加スル罰金ハ其金額ノ四分ノ一ヲ加減ス
ルヲ以テ一等ト爲ス但主刑ヲ減シテ禁錮ニ至ル時
ハ輕罪ノ罰金ヲ科ス

〇

此ノ附加刑ノ加減例ヲ示ス

凡ソ附加刑ノ加減ハ重罪罰金ノ外ハ皆主刑ニ從フ者ト
ス

故ニ無期ノ徒刑ヲ減シテ有期ノ徒刑トスレハ其附加刑
タル監視ハ(第四十八條ニヨリ)主刑長期ノ半ニ均シキ期
限即チ十年トス

然レトモ主刑赦典ニヨリテ免セラレタル時ハ全ク主刑
ト分離ス

例セハ無期ノ徒刑ニ處セラレ特典ニヨリテ其罪ヲ免シ
タル者ハ(第四十八條ニヨリ)其監視ノ期限ハ十五年間ト
ナルノ類

然ルニ罰金ニ在ツテハ則チ其四分ノ一ヲ加減ス此ノ第
八十三條禁錮罰金ノ加減法ニ依ル
抑此方法タル實際不適當ノ結果ヲ生スルニ至ル者アリ
何ソヤ輕罪ニ在テハ禁錮ト罰金ト俱ニ四分ノ一ヲ加減
スルノ規則ナルヲ以テ不可ナルヲナシト雖モ重罪ニ在
ツテハ主刑ト罰金ト其加減法ヲ異ニスルカ故ニ權衡ノ
彼此相距ル甚シキニ至レハナリ

即チ第三百三十四條ヲ見ヨ其第一ニ曰内亂ノ教唆者及ヒ
其首魁ハ無期流刑ニ處シ五百圓以上五千圓以下ノ罰金

ヲ附加スルアリ然ルニ該犯憫諒ノ事情アリテ其刑一等
 ナ減スルキハ主刑ハ有期流刑トナリテ其附加スヘキ罰
 金ハ(本條第二項ニヨリ)三百七十五圓以上三千七百五十
 圓以下トナル
 然ルニ同條第二ニ依リ通例有期流刑ニ該ル者ニ附加ス
 ル罰金ハ百圓以上千圓以下トス
 然ラハ同ク有期流刑ニ處セラレタル者ノ附加刑ニシテ
 一ハ百圓以上千圓以下ノ罰金トナリ一ハ數倍ノ高額ヲ
 科セラレ、ノ不公平ヲ生スルニ至ルモノハ何ノ理由ナ
 ルヲ知ルコト能ハス
 惟ツニ草案起草者多事ノ際偶然彼此ノ對照ヲ缺シナラ
 シ若シ果シ本案ノ如ク之ヲ他日ニ發行セシメシニハ蓋

シ日本刑法ハ一缺點ヨシテ余輩ノ遺憾少ナシト爲サ、
 夫シ法律ヲ設クルハ實ニ容易ノ事ニアラス草案ノ如キ
 蓋シ數回ノ訂正數回ノ審査ヲ經テ仍ホ此ノ如キノ不權
 衡ヲ生スルニ至ル注意セサルヘケンヤ
 以上ノ事項佛刑ニハ明文ナシ唯判決例ヲ以テ之ヲ明言
 スルノミ竟ニ草案ノ明悉ナルニ如カス以下佛刑ヲ説明
 セシ
 ○第四章 重罪及ヒ輕罪ヲ再犯シタル刑
 未タ本條ヲ講セサル前ニ再犯加重ノ全體ニ就テ一論辯
 セント欲ス諸君ニ問再犯トハ何ヲカ云フヤ
 答 一度罪ヲ犯シテ刑ヲ受ケ尙ホ悔悟セズシテ再ヒ罪

再犯スヲ云フハ佛語ニ「レシグー」ト稱ス再ヒ罪ニ陷ル
 日然リ再犯トハ佛語ニ「レシグー」ト稱ス再ヒ罪ニ陷ル
 ノ義ナレトモ常用スル所ニテハ其意味甚タ汎シ又「レイ
 テラシヨ」ト稱ス復犯ノ意ニシテ共ニ同一ノ義タリ故
 ニ一般ノ人ニ對シ再犯トハ何チ稱スルヤト問ハ、概テ
 常用ノ釋義ヲ以テ之ニ答ヘン
 刑法上ノ釋義ニ在テハ指ス所ノ意味此ノ如ク汎ナラス
 彼汎然再三罪ヲ犯シタリト稱スル者ノ如キハ所謂數罪
 犯ニシテ之ヲ處スル別ニ其方アリ加重ノ限ニ在ラサル
 ナリ
 刑法上ニ於テ再犯ト稱スルハ必ス第二次犯罪ノ前ニ一
 タヒ初犯ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者ヲ云フ

再犯ノ刑ヲ加重スル所以ノ者ハ一タヒ惡業ヲ以テ法律
 上相當ノ刑ニ處セラル、モ尙ホ畏懼戒悔スル所ナク更
 ニ頑然罪ヲ犯スカ如キハ此レ政府ノ嚴誡ニ服セス道義
 ナ破リ社會ヲ害スルノ大ナル者ニシテ其情狀特ニ疾ムヘ
 ケレハナリ之ヲ要スルニ初犯ノ刑未タ罪犯ノ心ヲ改良
 シテ其惡念ヲ消絶スルニ足ラサルヲ以テ之レカ重キヲ
 加フ固ヨリ其宜キナリ
 其數罪ヲ犯シタル者ヲ加重セサル者ハ其未タ司法官ノ
 告發ヲ受ケス法律上ノ嚴誡ヲ被ラス其情狀再犯者ト同
 シカラサルヲ以テナリ
 凡ソ再犯加重ノ場合ニ四個アリ曰初犯重罪ニシテ再犯
 モ亦重罪曰初犯重罪ニシテ再犯ハ輕罪曰初犯輕罪ニシ

テ再犯モ亦輕罪曰初犯輕罪ニシテ再犯ハ重罪是ナリ
 但第四初犯輕罪ニシテ再犯重罪ナルハ佛刑草案トモニ
 現ニ加重ノ例ヲ掲ケス然ル所以ノ者ハ重罪ノ刑ハ固ヨ
 リ重キヲ以テ必スシモ一々加重スルヲ要セス且該刑ハ
 區域ノ廣キカ故ニ判官自ラ其方寸ヲ以テ之ヲ加減スル
 得ヘケレハナリ
 筆者問 犯罪人ノ再犯ト否トヲ知ルハ何レノ方法ニヨ
 ルヤ
 答 各裁判所檢事局ニハ其管内在籍ノ罪犯人名簿ヲ備
 フ佛語之ヲ稱シ「カシエイギユシエール」ト云フ即チ裁
 判所ニ於テ罪犯ヲ問糺スルヤ首ニ其姓名年齢職業生地
 住居ヲ問ヒ次ニ其犯罪ノ事ニ及フヲ以テ該犯ノ管地分

明ナルキハ檢事ハ直ニ該地郡裁判所ノ檢事局ニ通牒シ
 テ其如何ヲ問フヲ得ルナリ
 凡ソ裁判所ニ於テ刑ノ宣告ヲ受ケタル罪犯アルハ書
 記官其判決書ヲ閱シ其管内ノ在籍ニ係ルキハ直ニ該名
 簿ニ記入シ他管ノ者タルキハ其副本ヲ該犯管地ノ檢事
 局ニ送付ス然ルキハ檢事ハ又之ヲ其裁判所書記官ニ交
 付シ其書記官之ヲ名簿ニ登錄スルヲ前ニ同シ
 其名簿ハ「アベセ」ヲ以テ部ヲ分チ順序ヲ立テ覽者ニ便ス
 其體裁タル一紙ニ數線ヲ野畫シテ其姓名ヨリ年齢職業、
 生地、居地、罪名、刑名及ヒ其減輕宥恕若クハ再犯加重ノ情
 狀及判決ノ年月日ト其審判ノ對審若クハ欠席ナルヤ否
 等ノ事ヲ登記ス故ニ海陸軍及ヒ商法裁判所ノ裁判宣告

等モ皆記入シタルナリ
罪犯人名簿ノ必用タルハ獨リ其再犯ノ有無ヲ知ルノミ
ナラス概子亦其行狀ノ何如ヲモ知ルコトヲ得ヘシ
但名簿編制ノ方法等ハ特別ノ規則ヲ以テ之ヲ定ム
余カ聞ク所ニヨレハ日本治罪法草案第六百二十九。三。十。
ノ兩條ニ於テ右ノ方法ヲ設定セリ諸君其レ之ヲ參觀セ

第五十七回

明治十二年十月二十一日

本日ハ佛刑第五十六條以下ニ就テ再犯四個ノ場合ヲ説
明セン

第五十六條 施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ後更

ニ主タル刑トシテ公權剝奪ノ刑ヲ言渡ス可キ重罪
ヲ犯シタル者ハ追放ノ刑ノ言渡ヲ受ク可シ
更ニ追放ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ囚獄ノ
刑ニ處ス可シ
更ニ徒刑場内ニ於テ使役スル刑ニ處ス可キ重罪ヲ
犯セシ者ハ有期ノ徒刑ニ處ス可シ
更ニ囚獄ノ刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重ナ
ル囚獄ノ刑ノ二倍ヨリ多カラザル期限間囚獄ノ刑
ニ處ス可シ
更ニ有期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ至重
ナル有期ノ徒刑ノ二倍ヨリ多カラザル期限間有期
ノ徒刑ニ處ス可シ

更ニ流罪ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ
 一旦無期ノ徒刑ヲ言渡サレシ者更ニ無期ノ徒刑ニ處ス可キ重罪ヲ犯セシ者ハ死刑ニ處ス可シ
 海陸軍裁判所ニ於テ刑ヲ受ケシ者其後更ニ輕重罪ヲ犯スニ因リ再犯ノ刑ニ處ス可キハ嘗テ海陸軍ノ裁判所ニ於テ其刑法ヲ用ヒズ通常ノ刑法ニ從テ刑ヲ言渡シタル輕重罪ノ場合ノミニ限ル可シ
 ○
 此ノ再犯四個ノ一ニシテ初犯再犯共ニ重罪ナル場合ニ係ル
 茲ニ一ノ欠點アリ即チ首ニ施體又ハ加辱ノ刑ノ言渡ヲ

受ケシ後トアル是ナリ蓋シ唯言渡トノミニテ加フルニ確定ノ二字ヲ以テセサレハ未ダ完全ヲ得ス故ニ判決例ニハ其確定ノ言渡タルヘキヲ明言セリ
 今マ重罪犯ニシテ刑期中若クハ其刑期ヲ了リ又ハ常赦、特典ヲ以テ刑ヲ免レタル者再ヒ重罪ヲ犯スルハ再犯ヲ以テ論シ加重セサルヲ得ス然ルニ總ニ其宣告ヲ受ケテ直チニ又重罪ヲ犯スルハ再犯ト爲スヘキヤ否
 ノ疑義アリテ判官或ハ迷誤ナキヲ保タス此レ確定ノ二字ナル可カラサル所以ナリ以下各項ニ就テ論辯セ
 第一項ハ曾テ施體加辱ノ刑ヲ受ケタル者更ニ主刑トシテ公權剝奪ニ處セラルヘキ重罪ヲ犯シタル時ニ係ル其

加重シテ追放ニ處スルハ第八條ノ階級ニ依リテ一等ヲ加フルナリ

右ノ一例ヲ以テ觀レハ再犯加重ノ法ハ總テ一等ヲ加フルカ如クナレハ決シ然ルニ非ス加重ニハ四個ノ規則アリテ一等加重ハ其規則中ノ第一位ニ居ルノミ

本條第六項ニ曰ク更ニ流刑ニ處スヘキ重罪ヲ犯セシモノハ無期ノ徒刑ニ處ス可シ第七項ニ曰ク無期ノ徒刑ニ處スヘキ罪ヲ再犯シタル者ハ死刑ニ處ス可シト此レ等皆其通常加等ノ方法ニシテ即チ第一位ノ規則ナリ

其無期徒刑ニ處セラレシ者再ヒ無期徒刑ニ處スヘキ罪ヲ犯スカ如キハ人或ハ其之ナキヲ疑ハン然ルニ此レ其恩赦、特典等ニテ初犯ノ刑ノ赦免ヲ得タル者更ニ再ヒ其

罪ヲ犯セシ場合アルニ因ル

然レハ其無期ノ徒刑ヲ加重シテ死刑ニ入ルハ亦頗ル苛酷ノ法タリ草案ハ此等ノ事ナシ請フ草案第七十九條ヲ參觀セヨ

又其第六項國事犯ニ科スルニ常事犯ノ刑ヲ以テスルハ大ニ加重一般ノ原則ニ違フト雖ハ蓋シ亦實際上已ムヲ得サルニ出ツ何トナレハ無期ノ徒刑ノ外ニ加フヘキノ刑ナケレハナリ

第二項更ニ追放ノ刑ニ處スヘキ重罪ヲ犯セシ者ヲ禁獄ノ刑ニ處スルハ追放ノ上ニアル所ノ懲役ヲ越テ直ニ禁獄ヲ以テセルハ全ク二等ヲ加フル者ニシテ第六第七兩條ニ用ユル第一規則ト差異アルカ如シ諸君以テ如何ト

ス
答 此レ國事犯ノ刑ヲ以テ常事犯ノ刑上ニ加ヘタルニ
由ルカ
日ク然リ故ニ二等ヲ加フルカ如クニシテ其實ハ一等ノ
ミ請フ草案第七十九第八十ノ兩條ヲ參觀セヨ草案ハ判
然常事犯ト國事犯トノ刑ノ階級ヲ分別セルヲ以テ佛刑
ノ疑義ヲ生スルカ如キトナシ然レモ其處刑ノ順序ニ於
テハ佛刑モ亦草案ト大異ナシ唯法文上之ヲ混載スルト
明示スルトノ異アルノミ
第三項更ニ懲役ノ刑ニ該ルヘキ重罪ヲ犯セシ者ヲ有期
徒刑ニ處スルハ之ヲ第七條ニ照セハ亦是レ二等ヲ加フ
ル者ノ如シ此レ常事犯刑ノ階級ニ由テ然リ此レ第二項

ト同ク加重方法ノ第二規則トス
第四項更ニ禁獄ノ刑ニ處スヘキ重罪ヲ犯セシ者ヲ其刑
ノ長期二倍以下ニ處スルハ此レ第三規則ニシテ第二ノ
規則ニ比スレハ稍其宜キヲ得ルニ似タリ即チ前例ノ如
ク之ヲ加等セントスルキハ有期徒刑ハ常事犯ニ係ルヲ
以テ加ヘテ流刑ニ處セサルヲ得ス然ルニ流刑ハ無期ナ
リ禁獄ハ有期ナリ有期ノ刑ヲ加重シテ直ニ無期ニ入ル
ルハ過酷ニ涉ルヲ以テ仍ホ其禁獄ノ刑ニ就テ其期限ヲ
長フ大
第五項更ニ有期ノ徒刑ニ處スヘキ重罪ヲ犯セシ者ヲ至
重ナル有期徒刑ノ二倍以下ニ處スルハ此レ亦理由第四
項ニ同ク其上ハ流刑ニシテ流刑ハ國事犯ノ刑ナレハ加

へテ無期ノ徒刑ニ處セサルヲ得サレハナリ
 此等ノ規則ハ立法者大ニ人情ヲ斟酌スル所アリ憾ムラ
 クハ獨リ此一事ニシテ未タ第七項等ニ及ハサルヲ
 夫レ禁獄ヨリ無期流刑ニ入リ有期徒刑ヨリ無期徒刑ニ
 入ルモ尙ホ過酷トス然ルニ無期徒刑ヲ加ヘテ死ニ入ル
 ハ過酷不正實ニ人情ニ戻リ法理ニ背キ徒ニ立法者用意
 ノ淺近ナルヲ見ルノミ
 茲ニ第四規則アリ有期徒刑ヲ犯シ更ニ無期徒刑ヲ犯シ
 タルモノ是ナリ然ルニ法律上此事ヲ載セス
 但舊法ニハ加ヘテ之ヲ死刑ニ處セシカ千八百三十二年
 四月二十八日ニ廢止シ現今實際ニ在テハ唯判官ノ所見
 ニ任シ科スルニ無期ノ徒刑ヲ以テス

第八項ハ特ニ必要ノ事ニ屬ス其初メ海陸軍裁判所ニ於
 テ刑ノ宣告ヲ受ケシ者爾後更ニ通常ノ輕重罪ヲ犯シタ
 ルキハ再犯ヲ以テ論スヘキヤ否ノ問題是レナリ此レ從
 來判決例上ニ於テ一定セス或ハ加重スヘシト云ヒ或ハ
 加重ス可カラスト云ヒ其論區々ニ涉リシカ遂ニ之ヲ法
 律上ニ明示スルニ至リ現今ハ通常刑法ニ從ツテ罰セラ
 レタル者ノ外ハ決メ再犯ヲ以テ論セス
 凡ソ海陸軍裁判所ノ軍人ニ於ケルト通常裁判所ノ常人
 ニ於ケルト其刑大ニ寬嚴ヲ異ニス
 凡ソ軍人ニシテ屯營内ニ於テ竊盜、或ハ暴行、長官ニ對シ
毆罵若クハ
嘲弄類等ヲ爲シタルカ如キハ通常ニ在テハ輕罪トナル
 へキモ海陸軍ニ在テハ重罪ヲ以テ罰ス是レ通常刑ノ再

犯加重ノ基礎ト爲サ、ル所以ナリ
 故ニ海陸軍裁判所ニ於テ一旦通常刑ヲ以テ罰セラレタ
 ル者ニ非サレハ再犯加重ノ例ヲ用ヒス
 若シ夫レ海陸軍裁判所ニテ通常刑法ヲ用ユヘキ場合ハ
 軍人ニシテ強姦或ハ謀故殺等ヲ犯シタルノ類是ナリ
 本項ノ明文ニヨレハ重罪ニ論ナク一般ニ適用スヘキ
 モノ、如クナレハ元來本條ハ重罪ノ場合ノミニシテ輕
 罪ノ場合ニアラス其文中輕罪ノ事アルモノハ誤謬タル
 チ免レス故ニ輕罪ノ事ハ更ニ之ヲ別條トシ第五十九條
 トスルキハ最モ當テ得ン然レハ今マ之ヲ改ムルハ一
 般法律ノ順序ヲ紊スヲ以テ第五十八條ノ第一項トスル
 可ナラン

第五十八回

明治十二年十月二十四日

第五十七條

(千八百六十三年五月十三日如左改ム)重

罪ノ爲メ一年間以上ノ禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ後更
 ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ者ハ
 法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處セラル可シ但
 シ其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増ス
 可シ得可シ

此刑ノ言渡ヲ受ケシ者ハ五年ヨリ少カラズ十年ヨ
 リ多カラサル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

凡シ重罪ニハ禁錮ノ刑ナシ然ルチ本條重罪ノ爲メ禁錮

云々トアルハ何ノ故ヲヤ諸君ノ説ヲ聞カン
答 此ノ重罪ノ刑ヲ減輕シテ輕罪ノ刑ヲ科シタル場合
ヲ云フカ

曰ク然リ其減輕ノ場合ハ如何

答 幼者ノ犯罪其他法律上若クハ陪審等ニテ其刑ヲ減
宥シタルカ如キ是ナリ

曰ク然リ佛刑第四百六十三條ニ至テ始テ減輕ノ事アル
ハ法章ノ倫序ヲ誤レル者ナリ此等ノ事須ラク之ヲ首ニ
掲ケテ看者ニ先ツ知了スルヲ得セシムヘシ

凡ソ重罪犯ニ因リテ一年以上ノ禁錮ノ刑ヲ言渡サレシ
者再ヒ禁錮ニ該ルヘキ輕重罪ヲ犯シタル時ハ至重ノ懲
治刑ニ處スヘシトアルハ此レ前條ニ於テ述ヘタル加重

ノ第二則ニ入ル者ナリ

然ルニ茲ニ二個ノ駁議アリ

其一ハ本文一年間以上ノ禁錮ノ刑ヲ受ケタル者ニアラ
サレハ再犯加重セサル是ナリ

今マ兩名ノ再犯アリ一ハ曾テ一年一日ノ禁錮ノ刑ヲ受
ケ一ハ曾テ一年ノ禁錮ヲ受ケンニ一ハ其一日ノ多キヲ
以テ加重セラレ一ハ加重ヲ免カレ此レ果ノ妥當ナリト
セソカ

元來再犯ノ加重アルハ初犯ノ刑ノ効驗ナキニ由テ更ニ
之カ懲戒ノ力ヲ加ヘント欲スル者ニアラスヤ然ルヲ僅
ニ一日ノ差ヲ以テ加重スルト否トノ大懸隔ヲ生シ尙ホ
其加重者ハ監視ノ刑ヲモ附加セラレハ至ルハ是レ懲

戒ノ公正ヲ得タル者ニ非ス宜ク一年内外ノ別ヲ論セス
 總テ其前刑ノ差等ニ應シテ之カ加重ヲナスヘキナリ
 又實際ニ就テ之ヲ觀ルニ判官其罪犯情狀ニヨリ他日再
 犯加重ノ基礎ヲラシメシメカ爲メニ特ニ一年ニ一日若ク
 ハ二三日ノ零數ヲ付シテ禁錮ヲ命スル者少カラス此レ
 皆法律ノ不正ヨリ生スル弊害ト云ハサルヲ得ス
 其二ハ再犯ハ其罪ノ輕重ヲ分テ至重ノ懲治刑ニ
 處スル是ナリ
 夫レ前犯ノ刑一年以上ノ禁錮ナレハ其後犯ノ罪狀何如
 ナ問ハス必ス直ニ五年若クハ十年ノ禁錮ニ處ス此亦嚴
 酷不公ニ非スヤ

第五十八條 (千八百六十三年五月十三日如左改ム) 輕

罪ノ爲メ一年以上禁錮ノ刑ノ言渡ヲ受ケシ者其後
 更ニ懲治ノ刑ニ處ス可キ輕罪又ハ重罪ヲ犯セシ時
 ハ法律上ニ定メタル至重ノ懲治刑ニ處セラレ可シ
 但シ其期限ハ通常ノ期限ノ二倍ニ至ル迄之ヲ増ス
 一ヲ得可シ又其再犯人ハ五年ヨリ少カラズ十年ヨ
 リ多カラザル時間政府ノ監察ヲ受ク可シ

此ノ前條ト同一ノ精神ナリ
 前條ハ重罪ニヨリ禁錮ヲ受ケタル者ノ再犯ニシテ本條
 ハ輕罪ニヨリ禁錮ヲ受ケタル者ノ再犯ニ係ル但本條重
 罪トアルハ前條ニ同ク皆減輕ヲ受ケタル重罪ヲ云フ
 茲ニ一ノ駁スヘキハ本文懲治ノ刑ニ處スヘキ輕罪又ハ

重罪ヲ犯セシ云々是ナリ
 凡ソ前犯輕罪ニシテ後犯重罪ナルハ加重ヲ爲サ、ルノ
 原則ニアラサヤ然ルニ本文ノ如クナレハ前犯ノ輕罪ナ
 ル者ニ加重ヲ用フルニ至ル此レ原則ニ矛盾セリト云ハ
 サルヲ得ス
 今マ初犯減輕ヲ受ケスシテ輕罪ノ刑ヲ科セラレシ者モ
 再犯重罪ナル時ハ加重ノ限リニ在ラサルヲ以テ唯其適
 當ノ刑即チ懲役五年ヲ科セラソシ然ルニ本條ニヨレハ
 其再犯ノ罪減輕ヲ得テ輕罪禁錮ノ刑ヲ科セラル、者ハ
 加重シテ其長期ノ二倍即チ十年ノ禁錮ニ處セラル、ニ
 至ル夫レ均ク再犯タリ而シテ其減輕ヲ得サル者ハ彼レカ
 如ク輕ク其減輕ヲ得ルモノハ此ノ如ク重シ此レ獨リ原

則ニ矛盾スルノミナラス亦不正ノ法ト云フヘシ
 此ニ諸君ニ問フ今マ公判ノ席ニ於テ徒刑ノ宣告ヲ受ケ
 シ罪犯直ニ監守人ヲ毆傷スルカ如キハ再犯ヲ以テ論ス
 ヘキヤ
 答 裁判ノ未タ確定セサル間ハ再犯ヲ以テ論スルヲ得
 サルヘシ
 曰ク然リ其故如何
 答 控訴若クハ上告ヲ爲スキハ前裁判宣告或ハ消滅ニ
 至ルモ未タ測ル可カラサレハナリ
 曰ク然リ凡ソ犯罪ノ裁判確定前ニ係ルモノハ再犯ヲ以
 テ論セス故ニ前第五十六條以下總テ刑ノ言渡シトノミ
 アリテ其確定如何ヲ明言セスト雖モ此レ固ヨリ確定ノ

言渡タル知ルヘシ然レモ終ニ法文ノ不備タルヲ免カレ
ス。

以下草案ニ比對シ彼此ノ得失ヲ論セン

(草案)第五章 犯罪加重

第一節 再犯加重

第一百一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯有
期重罪ニ該ル時ハ其刑ノ長期ニ處ス若シ本刑長期
ニ該ル者ハ長期以上四分ノ一ヲ加フ
再犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

此レ初犯重罪ノ刑ニ處セラレシ者再ヒ重輕罪ヲ犯シタ
ルルノ加重方法ヲ示ス

即チ前犯ノ刑ノ期限ニ論ナク再犯有期重罪若クハ輕罪
ニ該ルヘキ者ハ一體ニ加重ス
但○其○無○期○ノ○徒○刑○ニ○該○ル○ヘ○キ○モ○ノ○ハ○加○重○セ○ス○此○レ○嘗○テ○佛
刑ニ於テ講シタルカ如ク加重セント欲スルモ能ハサル
者アレハナリ
其加重ヲ爲スニハ再犯ノ刑有期ナルキハ其刑ノ最長期
ニ處シ其已ニ法律上ニテ最長期ヲ以テ本刑トシタル場
合ニ於テハ其長期四分ノ一ヲ加フ此レ宜キヲ得タリト
云フヘシ
今マ佛刑ト草案トヲ比較スルニ二箇ノ差異アリ佛刑ハ
無期徒刑ノ再犯ハ加ヘテ死刑ニ入ル草案ハ死ニ入レス
此レ其一也

又佛刑ハ刑ヲ加重スルコトニ其刑ノ性質ヲ變ス草案ハ其最長期若クハ四分ノ一ヲ加フルニ止ム此レ其二也
 第二項ハ輕罪再犯ノ方法ヲ説ク
 凡ソ草案ニ於テ輕罪刑ノ加重ハ本刑期四分ノ一ヲ加フルヲ法トス本文四分ノ一ト云ハスシテ單ニ一等ト云ヘルハ第三章加減例ニ詳明ナルヲ以テナリ
 尙ホ之ヲ佛刑第五十六條ニ對照セヨ其何レカ嚴ニシテ何レカ寛ナル又何レカ簡明ニシテ何レカ錯雜セルヤ問ハスシテ知ルヘシ

第五十九回

明治十二年十月廿八日

〔草案〕第百二條 先ニ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者再

犯輕罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

譯者曰本文先キニ輕罪云云トアルハ歐文草案ニハ禁錮ノ字ヲ用フ輕罪ト云ヘハ語汎クシテ罰金ヲモ含有セルカ如シ然ルニ初犯ノ刑罰金ノミナルハ再犯加重ノ限リニ在ラサルカ故ニ單ニ禁錮ト明言スルヲ可トス此レ教師ノ意ナリ
 此レ輕罪ノ再犯加重ニシテ嘗テ禁錮ノ刑ニ處セラレシ者再ヒ輕罪ヲ犯セシ時ハ第八十三條ノ例ニヨリテ一等ヲ加重スルヲ云フ
 佛刑ト草案ト加重方法ノ大ニ異ナル者アルハ前回ニ於テモ零之ヲ陳述セシカ尙ホ其事項ヲ擧ケテ之ヲ示サシ

第一佛刑七第五十ニ於テハ再犯ハ其事情ノ如何ヲ問ハス
 皆直チニ加重シテ禁錮ノ長期五年ニ處シ其重キハ尙ホ加
 ヘテ長期ノ二倍年十ニ至ルヲ以テ獨リ嚴酷ニ失スルノミ
 ナラス亦甚タ公平ヲ欠ク者アリ草案ハ之ニ反シ唯其本
 刑ニ一等ノ四分ヲ加フ此レ草案宜キヲ得ヌル者ナリ
 第二初犯禁錮ノ重罪減輕ニ因レルト其全ク輕罪ニ係レ
 ルト草案ハ之ヲ別タス佛刑ハ則チ別ツテ之ヲ掲ケ其處
 分ハ更ニ異ナルヲナシ此レ佛刑ノ煩絮ヲ免カレサル所
 ナリ

第三ハ最モ緊要ノ事トス佛刑ハ初犯禁錮ノ一年以上ナ
 ル者ニ非レハ加重セス草案ニ在テハ其期限ノ長短ヲ別
 タス初犯ノ禁錮ニシテ再犯輕罪ニ該ルヘキモノハ舉ケ

テ皆加重ス此レ正理ニ適スト云フヘシ
 凡ソ刑期ニ長短アルモ其懲戒タルハ一ナリ已ニ一タヒ
 懲戒ヲ受クレハ其謹慎悔改以テ自新ヲ圖ル可キハ固ヨ
 リナリ否ラサレハ刑其功效ナシ刑其功效ナケレハ刑ナ
 キト同シ然ルヲ何ソ獨リ其期限ノ長短ヲ以テ之ヲ區別
 スルノ理アラゾヤ
 然ルニ佛刑定メテ一年ト爲スハ何ノ據ル所アルヤ立法
 者ノ臆度ヲ以テスルニ過キサルノミ臆度ヲ以テセハ之
 ヲ進メテ一年半トナシ二年トナスモ亦其意ニ任スルヲ
 得ン此レ終ニ止マル所ナキナリ
 尙ホ一ノ不備ナル者アリ罰金加重ノ如キハ其方法如何
 ナ知ルニ由ナキ是ナリ

即チ第四百一條定ムル所ノ罰金ハ「十六フランク」以上「五百フランク」以下トアリ之ヲ第五十八條ノ例ニヨリテ加重スル者トナサハ假令ヒ其罪輕キニ屬スルモ再犯ニ係ル者ハ加重シテ其罰金ノ高額「五百フランク」若クハ其二倍「千フランク」ヲ科スルモ妨ケナキカ如シ豈此苛嚴不當ノ罰アル可ケンヤ

故ニ大審院ノ判決ハ第五十七條第五十八條ノ加重法ハ罰金ニ適用ス可キ者ニ非ストス已ムトヲ得サルニ出ルナリ

草案ニ在テハ初犯ノ刑ノ罰金ニ止マル時ハ再犯ノ罪禁錮ニ當ルモ罰金ニ當ルモ并ニ加重セス之ニ反シ初犯ノ刑ノ禁錮ニレテ再犯罰金ニ該ル時ハ之ヲ加重ス而シテ其

加重ノ方法ハ其金額四分ノ一ヲ以テシ定メテ一等トス凡ソ犯罪ノ罰金ノ刑ニ止マルカ如キハ其事情單ニシテ輕シ殆ソト違警罪ト相似タリ此レ其再犯加重ヲ用ヒザル所以ナリ

(草案)第三百三條 先ニ違警罪ノ刑ニ處セラレタル者再犯違警罪ニ該ル時ハ本刑ニ一等ヲ加フ

違警罪ハ一年內再ヒ其違警罪裁判所ノ管轄內ニ於テ犯シタル時ニ非サレバ再犯ヲ以テ論スルヲ得ズ

此レ違警罪ノ再犯加重ヲ云フ

違警罪ノ刑ハ初犯再犯トモニ違警罪ニ非サレハ加重セ